

2019年度 事業報告書

社会福祉法人エデンの園

障がい者支援施設エデンの園 エデンの園ショートステイ エデンの園ふれあい
エデンホーム三名 エデンホーム森永 ほのかショートステイ
エデンの園相談支援事業所 放課後等デイサービス麦わらぼうし
就労継続支援事業B型つむぎ 地域貢献事業じょいほっふ

2019年度事業報告書 目次

(ページ数)

1. 平成31、令和元年度を振り返って	1
2. 平成31、令和元年度業務日誌	5
3. 本部事業(理事会・評議委員会・寄付金)	17
4. 各種委員会報告	19
5. 第一福祉課	35
6. 障がい者支援施設エデンの園	34
7. エデンの園ショートステイ	45
8. エデンの園ふれあい	46
9. エデンホーム三名	48
10. 第二福祉課	50
11. エデンホーム森永	54
12. ほのかショートステイ	55
13. 相談支援事業	56
14. 放課後等デイサービス麦わらぼうし	59
15. 就労継続支援事業B型つむぎ	62
16. 地域貢献事業じよいほっふ	64

1. 令和1（2019）年度を振り返って

業務執行理事 廣瀬 恵

2015（平成27）年度から5年を目途に長中期計画に沿った事業を行ってきたが、2019年度は中期計画の最終年度となった。既存の事業とこの5年の間に開始した事業とを合わせると11事業となった。それぞれの事業の概況を地域貢献事業3事業も含め表1に整理した。

今年度はそれまでの「入所施設」と「地域の事業」というくくりを改め、地理的關係によって第1福祉課（国富町三名）と第2福祉課（国富町森永・綾町）とに分けて運営した。またグループホーム「ほのか」開設（2019年3月）に伴いグループホーム「いこいの家」を閉鎖した。「ほのか」ではショートステイも行っている。さらに会計事務と給与事務を新たに外部業者に委託し事務軽減を図るとともに、専門的な意見を参考に運営した。以下、令和元年（2019）年度重点項目に沿って振り返りたい。

1. 法人理念を学び、全職員が同じ方向を向いて事業を進めます。

理念塾（理念についての研修）を2回行う。6月には理念の意味の理解を学び、理念に謳われている「当たり前の生活」についてグループワークを行った。職員個々、グループごとに「当たり前の生活」について考え、12月には事業所ごとに考えた。「理念」が法人の存在意義であることを覚え今後も学びを深め経営に生かしていく必要がある。

2. 権利擁護を推進し、利用者の意思決定及び人格を尊重した虐待行為のない施設、事業所にします。

「身体的虐待」を行わないという視点から「意思決定」、「環境整備」、「支援計画」、「柔軟な日課」などによって「生活の質」を高めることに意識を向けた。しかし利用者のニーズ（意思）を捉え、個別支援計画に挙げ、実行するための支援体制の確立までには至っていない。事業所での利用時間を軸にしたきめ細かな「支援シート」の作成と周知、実行、検証が求められている。

なお虐待に関する通報は法人全体で2件通報した。内1件虐待として認定された。1件は外部からの行政への通報であり確認したところ、事実はなかったが有り得ることだとして、職員会で共有した。

3. 各事業の定員に対する充足率100%を目指します。

新規の利用者の推移、利用率などを毎月経営委員会で確認した。

年間を通して入所系は98%を超えた。通所系は月によって波があったが、年間を平均すると施設93%ふれあい96%、つむぎ85%、麦わらぼうし94%であった。また5月に開設したショートステイほのか（45%）、エデンの園ショートステイも77%と、利用率が高かった。「ふれあい」では新規の利用者を増やすために相談支援事業所等に、事業所が特徴を持ちアピールする必要も求められた。

4. モニタリング等により顧客満足度を調査し、利用者目線での支援を進めます。

満足度調査を年度末に利用者、家族向けに行った。おおむね良い印象を持っていただいている。一方で、年に3回行う家族会との連携委員会では活発な意見が出され、「通院支援」、「食事内容と量」、「入浴回数」「いわゆる65歳問題」などが挙げられた。また「はびねすの窓」（第三者委員による苦情解決）では利用者から生活の中での困りごとが素直に挙げられている。改めて各事業所での解決や説明を行う。

5. 中長期ビジョンにそった取組みを行います。

① 生きがいある生活

- 「共に生きる会」の発足目的である「共生社会」を意識し、その生活基盤である「衣・食・住」の充実を図り、「社会生活支援」を行います。
- 一人ひとりの個性、興味、強みにそった生きがいのある日中活動や余暇活動を行います。

質の高い支援とは「意思決定」を支援し実行を保証することであるが、利用者の「意思決定」を大切にしてきたか？個別支援計画に反映されたか？実行されたか？と問われると十分とは言えない。ニーズ（意思）を捉えるために、生活単位はグループホームのようにできるだけ少数でありたい。3月から入所施設ではエリア分けを行った。利用者と職員の距離感を縮め、受容し、傾聴し、意思を捉え、実現する取組みが始まる。

② 安心できる高齢者支援の仕組み

- 介護予防や介護（技術）力を高め、利用者が住み慣れた場所で安心して生活できる体制作りを進めます。

排泄ケア研修は外部講師を招いて行った。排泄機能の仕組みとともに個人に合わせた排泄支援の必要性を学んだ。エデンの園では高齢者棟（花の街）での利用者の生活スタイルが定着したように思える。また単発的に個人ごとに外出を入れたが、さらに社会生活支援が必要である。喀痰吸引研修2名が受講、現在看護師の他、有資格者は3名。

③ 地域のニーズにこたえる

- 地域のニーズを知り、将来行う事業の可能性を探ります。また、地域福祉コーディネーターやCSW（コミュニティーソーシャルワーカー）を養成します。
- 地域生活支援拠点として、GHほのかの短期入所室を、「緊急時の受け入れ・対応機能」としての登録をすすめます

社会福祉法人の地域貢献として国富町や社会福祉協議等とともに地域福祉の一端をになった。また独自に「じょいほっぷ」や地域福祉支援センターでの「入浴サービス」を行った。GHほのかのショートステイは「緊急対応短期入所」機能を持つ。地域福祉コーディネーター、CSWともに各1名養成した。

④ 人材（財）確保と育成

- 求人・採用を計画的に行い、事業遂行に適正な人材を確保します。
- 強度行動障害や盲重複障害に対する支援方法、高齢者や身体障がいのある利用者に対する介護技術を学びます。
- 労働安全衛生やメンタルヘルスに留意して事業運営を行います
- 定年延長等を行い、個々のペースに応じた労務体制を整えます。

人材確保が難しい昨今ではあるが、積極的な求人活動行い成果もあがった。新任職員研修を手厚く行った。その中で、学んだことと実際の支援とのギャップに悩んだという意見があった。

その他の研修は予定通り行い、学びを実践の中で生かし、振り返るシステム（振り返りシート）を作った。また、「法人研修」はひと月に1テーマとし、全職員を対象とした。

メンタルヘルス研修は外部講師を招き、家族会と共催で1回、またリーダー向けに1回行った。

残念ながら退職者もいた。人間関係、チームワーク、仕事へのやりがい、仕事量、自己実現などがその理由であった。定年延長を行い62歳とした。また今年度から施行された通称「働き方改革」に沿った労務体制は年休消化で実現したが、時間外労働を減らす対策が求められる。

その他

- グループホーム「ほのか」の開設に伴いグループホーム「いこいの家」を閉鎖した 2019.3
- 新任職員研修プログラムを充実した
- 「つむぎ」開所1年記念コンサート をわたぼうし会共催で開催（5月3日）
- 障害者支援施設一部改装し、エリア分けて支援をはじめた。
- 新型コロナウイルス感染予防のため3月予定の「くにとみ春風コンサート」を中止した。
また同理由でじょいほっぷを3月から休止している。
- 社会福祉充実計画を終了した

各事業所の概況（表1）

	事業所名	開始年月	定員	備考
1	障害者支援施設エデンの園 (施設入所支援) (生活介護)	1978年(S53)4月	60	・精神薄弱者更生施設(1978) ・知的障害者更生施設(2001) ・自立支援法施行に伴い、障害者支援施設に移行(2012)
2			60	
3	エデンの園ショートステイ (短期入所)	1991年(H3)		併設型2、空床型
4	エデンの園ふれあい (生活介護)	2002年(H14)4月	20	・法人単独(02) ・ふれあい分場(03) ・自立支援法施行に伴い、生活介護へ移行(12)
5	エデンホーム三名 (共同生活援助)	2019(平成31)3月	12	みらい8名、のぞみ4名
	○ホームみらい	1999年(H11)	8	法人単独(99年)4人 地域生活支援ホーム(00年) グループホーム(01年) 新築移動(09)8人
	○のぞみの家	2007年(H19)	4	地域生活支援ホーム(07) グループホーム(09)
6	麦わらぼうし (放課後等デイサービス)	2016年(H28)11月	15	令和2年度より定員増
7	つむぎ (就労継続B型)	2018年(H30)4月	20	綾町
8	エデンホーム森永 (共同生活援助)	2019年(H31)3月	14	
	○青い鳥	2016年(H28)10月	7	
	○ほのか	2019年(H31)3月	7	
9	ほのかショートステイ (短期入所)	2019年(令和1)5月	1	併設型1
10	エデンの園相談支援事業	2014年(H26)		特定相談
11				指定児童相談

地域貢献事業

12	じょいほっぷ	2015年(H27)1月	10	エデンの園内
13	生活困窮者に対する相談支援事業	2015年(H27)4月		相談支援事業所内
14	フードバンク事業	2018年(H30)3月		法人事務局
15	居場所づくりクリスタルカフェ	2018年(H30)4月		法人事務局

6. 利用者の年齢分布（施設とグループホーム）

（歳）2020年4月1日

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均	平均
施設 61人	男 30	0	2	5	12	7	3	1		46.6	52.7
	女 31	0	0	0	5	12	9	4	1	58.4	
GH 25人	男 18			1	3	8	5	1		52.4	54.4
	女 7			1	1	3	1	1		54.4	
86人		1	3	7	25	32	12	6	1		52.8

7. 入所者の施設での生活年数状況

（歳）2020年4月1日

		0～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31～35	36～40	41以上	平均(年)	平均
施設 61人	男 30	4	1	4	7	0	5	4	1	4	21.7	24.0
	女 31	0	2	2	3	4	1	7	2	8	28.0	
GH 25人	男 18	8	1	4	5						9.3	7.8
	女 7	3	4								4.9	

8. 利用定員と実績

事業所(定員)	定員	月平均利用者数	令和2年4月1日 契約者数
障害者支援施設エデンの園	60名	58.8名	61名
障害者支援施設エデンの園(生活介護)	60名	55.9名	68名
エデンの園ショートステイ	併2名・空床	46.9名	13名(年度実利用者)
エデンの園ふれあい(生活介護)	20名	19.2名	33名
エデンホーム三名(グループホーム)	12名	11.8名	12名
エデンホーム森永(グループホーム)	14名	13.6名	13名
ほのかショートステイ(1名)	1名	13.5名	8名
麦わらぼうし(放課後等デイサービス)	10名	9.4名	17名
つむぎ(就労継続B型)	20名	17.0名	23名
じょい・ほっぷ(地域貢献)	10名	2.7名	14名

9. 相談支援実績

人

	新規契約者	事業所変更	現契約者数	計画・継続実績	終了者
R1年度	50(15)	10(3)	225(82)	499(149)	14(1)

()はその内の児童数

※終了者は、契約はしたものの、サービス利用がなく、全く基本相談もなかった方を含む。

2. 令和元年度業務日誌

平成31年度 日誌 4月

日	曜	内 容
1	月	辞令交付、新任職員研修、全体会、新任職員(9名)研修、 合併浄化槽点検(産商)
2	火	新任職員研修
3	水	新任職員研修、髪カット
4	木	新任職員研修、歯科往診
5	金	新任職員研修、事故防止委員会、美化委員会、臨時権利擁護虐待防止委員会 自動ドア点検(オリエント産業)
6	土	土曜学校(印牧師)
7	日	
8	月	新任職員研修、グループホーム職員会、家族会ボランティア
9	火	新任職員研修、法人施設内研修
10	水	新任職員研修、明星視覚支援学校入学式(廣瀬)、内科診察
11	木	新任職員研修、
12	金	新任職員研修、第2福祉課会議、国富・綾町役場、社会福祉協議会、嘱託医等あいさつ回り 都城福祉課虐待案件確認、害虫駆除(ダスキンひむか)電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
13	土	土曜学校・オンジャンコンサート(金牧師)
14	日	
15	月	新任職員研修、給食連絡会、宮崎県庁福祉課見学(7名)
16	火	権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、サービス調整会、記録委員会、ピアノ調律
17	水	内科診察、新任職員研修、麦わらぼうしイースター(理事長)
18	木	新任職員研修
19	金	新任職員研修、イースター召天者記念会準備
20	土	家族会、イースター召天者記念会、職員会 高齢者棟雨漏り工事、麦わらぼうし・つむぎ芋植え、一粒の麦313号発行
21	日	
22	月	環境整備(川崎氏～24)、宮崎市障害区分認定調査
23	火	新任職員研修(キャリアビジョン発表会)、園内研修、家族会ボランティア 精神科診察」、九知協日中活動支援部会(福岡市・廣瀬)
24	水	バイブルカフェ
25	木	労働安全衛生委員会、宮崎市障害区分認定調査
26	金	
27	土	土曜学校(山口牧師)
28	日	
29	月	昭和の日
30	火	

令和1年度 日誌 5月

日	曜	内 容
1	水	辞令交付、新任職員研修、防犯カメラ取り付け(～2)
2	木	クラブ活動
3	金	憲法記念日、つむぎ輪音コンサート(開所1周年記念)
4	土	みどりの日、土曜学校(金牧師)、全体会
5	日	こどもの日、
6	月	振替休日
7	火	第一福祉課会議、防災委員会、研修委員会、宮崎県知的障害者施設協議会理事会・総会 園内研修(コミュニケーション)(人事評価研修)
8	水	髪カット、産商、都城市役所(虐待関連調査)
9	木	経営委員会、害虫駆除(ダスキンひむか)、電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
10	金	歯科往診(宮崎市歯科福祉センター)
11	土	土曜学校(印牧師)
12	日	
13	月	グループホーム職員会
14	火	権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、記録委員会、サービス調整会議 環境整備(～17)宮崎県経営協議会(宮崎市・理事長、宇都宮)
15	水	髪カット、書道クラブ、環境整備、厨房水道工事、 KC スピリットコンサート(農村環境改善センター)
16	木	クラブ活動(ミニコンサート)、新任職員スタートアップ研修会(廣瀬)
17	金	事故防止委員会、栄養管理委員会、美化委員会、九知協日中活動支援部会(福岡市・廣瀬)
18	土	土曜学校(荒平牧師)、家族会、職員会、広報委員会、人事評価研修(新任職員)
19	日	
20	月	給食連絡会、環境整備、空調切り替え(～21)、有機性汚泥収集処理(環境未来恒産)
21	火	鳥害対策工事(ネット等)～24日
22	水	防災訓練、福祉の基礎知識研修(窪田、児玉和樹)
23	木	労働安全衛生委員会、歯周病防止研修、施設内研修(コミュニケーション) 新任職員スタートアップ研修(県福祉総合センター 久保・高橋)
24	金	
25	土	土曜学校(清水町教会 山口牧師)
26	日	
27	月	総務課会議
28	火	精神科診察
29	水	人事評価評価者研修
30	木	
31	金	新任職員研修、園内研修(コミュニケーション)

令和1年度 日誌 6月

日	曜	内 容
1	土	土曜学校(印牧師)
2	日	
3	月	法人監事事前監査(～5)
4	火	防災委員会、研修委員会、園内研修(理念塾)
5	水	合併処理施設点検(産商)
6	木	全国盲重複障害者福祉施設研究協議会運営委員会・施設長セミナー(廣瀬、日高～7) つむぎ宮崎県指導監査 感染対策委員会 宮崎市障害区分認定調査
7	金	口腔ケア—(歯科福祉センター)
8	土	土曜学校(金牧師)
9	日	
10	月	法人監事監査、エデンホーム三名職員会、花の街洗面所工事、環境整備(～14)
11	火	平成30年度第7回法人理事会、家族会ボランティア(5名)
12	水	権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、サービス調整会、髪カット 県知協新任職員研修(馬場～13)
13	木	園内研修(理念塾)、浄化槽清掃(産商)、害虫駆除(ダスキンひむか) キャリアパス構築人材育成研修(光森)
14	金	栄養管理委員会、美化委員会、電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
15	土	土曜学校(海老原牧師)、家族会、職員会、はぴねすの窓
16	日	
17	月	給食連絡会
18	火	エレベーター点検(フジテック)
19	水	家族会、施設連携委員会
20	木	園内研修(理念塾)、花の街洗面所・女子浴室・厨房水道修理工事
21	金	施設実習(4名)、口腔ケア(歯科福祉センター)
22	土	土曜学校(山口牧師)
23	日	
24	月	
25	火	平成30年度第8回理事会 第3回評議員会、家族会ボランティア(5名)、 エデンホーム三名ミーティング
26	水	災害対策委員会、髪カット、バイブルカフェ
27	木	労働安全衛生委員会、園内研修(理念塾) エレベーター定期検査(フジテック)
28	金	接遇研修(米岡光子様)、宮崎北聖書キリスト教会サフラン会ボランティア7名 コーチング研修(寺田、長友真佐子)
29	土	土曜学校(山口牧師) 麦わらぼうし親睦会、宮知協職員交流レクリエーション
30	日	

令和1年度 日誌 7月

日	曜	内 容
1	月	臨時感染対策会議
2	火	福祉施設における食の安心安全研修(池水、森崎)
3	水	経営委員会、記録技術研修(築地、長友) 全国盲重複職員研修会(～5 長嶺、福井)
4	木	感染対策員会
5	金	口腔ケア(歯科福祉センター)、第2福祉課事故対策委員会
6	土	土曜学校(金牧師)、KC スピリットボランティア(三名保育園)
7	日	
8	月	
9	火	施設内研修、家族会ボランティア(5名)、電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
10	水	内科診察、環境整備(～12)、害虫駆除(ダスキンひむか)、 地域福祉コーディネーター基礎研修(光森)、就業支援基礎研修(長友大輔)
11	木	宮崎県集団指導、法人理事研修会(山路、甲斐、宇都宮)、クリーン事業部基礎研修(長友大輔)
12	金	韓国系米国福祉関係者施設見学
13	土	土曜学校(印牧師)
14	日	
15	月	海の日
16	火	権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、園内研修(各事業所紹介) 就業支援基礎研修(長友大輔)
17	水	
18	木	施設見学(はまゆう園、やわらぎの里へ8名)、自動ドア点検(オリエント産業)
19	金	労働安全衛生委員会、口腔ケア(歯科福祉センター)、認知症基礎研修(海野)
20	土	土曜学校(荒平牧師)、家族会、職員会、一粒の麦 314号発行、広報委員会、
21	日	全国知的障害関係施設長会議(～23)
22	月	宮崎市障害区分認定調査
23	火	事故防止委員会、災害対策員会、請求事務研修、園内研修(事業所紹介)
24	水	第一福祉課パート職員研修、常明園職員研修(5名)、髪カット 全国社会福祉法人青年会基礎講座(櫻木～25、東京)
25	木	総合防災訓練、給食連絡会、
26	金	ふれあいサマーフェスタ、接遇研修(米岡光子様)
27	土	土曜学校(山口牧師)
28	日	ふれあい防災訓練
29	月	合併処理施設点検(産商)
30	火	LED 照明交換工事、都農町福祉課障害区分認定調査
31	水	地域福祉コーディネーター研修(光森)

令和1年度 日誌 8月

日	曜	内 容
1	木	みやざき安心セーフティーネット事業相談員研修会(光森、東郷～2) OJT 研修(河野～) LED 取り付け工事、新任職員研修、園内研修(地域福祉)
2	金	経営委員会、防災備品点検(みらい)、口腔ケア(宮崎歯科福祉センター)、
3	土	土曜学校(金牧師)
4	日	
5	月	災害対策委員会、施設実習(宮崎医療福祉カレッジ 2名～9/4)、環境整備(～9) 宮崎県経営協セミナー(廣瀬、山路、宇都宮)
6	火	るんるん食堂 防災委員会、研修委員会、第1福祉課会、
7	水	ホームひかり修繕工事
8	木	害虫駆除害虫駆除(ダスキンひむか)
9	金	ボクシー納車、法人内ネット環境整備
10	土	土曜学校(印牧師)、ホームひかり畳替え
11	日	
12	月	
13	火	運営委員会、災害対策委員会、サービス調整会議
14	水	
15	木	事故対策員会
16	金	環境整備、口腔ケア(歯科福祉センター)、ホームひかりクリーニング 電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
17	土	家族会、職員会、広報委員会、業務改善会議
18	日	
19	月	グリストラップ清掃(環境未来興産)、東館屋根工事(井戸川建設)、 喀痰吸引研修(日高薫、小野宮崎東病院～20)
20	火	会計・財務管理研修(久保～21)
21	水	
22	木	園内研修(地域福祉)
23	金	
24	土	土曜学校(山口牧師)
25	日	
26	月	綾町障害区分認定調査、給食連絡会、喀痰吸引研修(日高薫、小野宮崎東病院～27) 地域福祉コーディネーター養成研修(光森)
27	火	事故防止委員会、家族会ボランティア
28	水	防災機器点検(協同防災)
29	木	第2回法人理事会、浄化槽法定検査(宮崎県環境科学協会)、ミーティング研修(渡部)
30	金	宮崎学園短期大学実習2名、防災訓練
31	土	土曜学校(浅野牧師)、

令和1年度 日誌 9月

日	曜	内 容
1	日	
2	月	喀痰吸引研修(日高薫、小野宮崎東病院～3)
3	火	新任職員研修、総務課会議
4	水	喀痰吸引研修(鳴原～宮崎東病院)、国富町社会福祉法人連絡会 福祉従事者が地域とのつながりを考える研修(坂元)
5	木	権利擁護・虐待防止委員会、小林市障害区分認定調査
6	金	経営委員会、美化委員会、口腔ケア(歯科福祉センター)、労使協定
7	土	土曜学校(山口牧師)、施設ふれあい合同運動会(アリーナ国富) 本庄高校学生ボランティア9名
8	日	
9	月	エデンホーム三名会議、エレベーター点検(フジテック)、 喀痰吸引研修(日高薫、小野宮崎東病院～10)
10	火	第1福祉課会議、防災委員会、家族会ボランティア
11	水	髪カット(川越理容)、つよし寮施設見学者来園、害虫駆除(ダスキンひむか)
12	木	園内研修、産業廃棄物廃棄(宮崎環境保全公社)、合併処理施設点検(産商)
13	金	電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
14	土	土曜学校(印牧師)
15	日	
16	月	敬老の日
17	火	花の街敬老会、権利擁護虐待防止委員会、運営委員会、サービス調整会議、園内研修
18	水	応急手当研修(日高武敏)、地域福祉コーディネーター研修(光森)
19	木	職員採用試験、九知協施設長研究大会(廣瀬、那須～20 熊本市)
20	金	
21	土	土曜学校(荒平牧師)、家族会、家族会合同研修(メンタルヘルス 待木美奈子様)、職員会
22	日	
23	月	秋分の日
24	火	精神科診察、給食連絡会、環境整備(川崎氏～10/2)
25	水	髪カット(川越理容)、全国盲重複障害者関係者研究大会(宇都宮、山路、大山、～26 長崎)
26	木	労働安全衛生委員会、園内研修、県知協合同研修(ひなもり園、第2花の木ファーム)
27	金	合併処理施設点検(産商)、OJT研修(河野仁美)、拘縮褥瘡予防研修(田代)
28	土	土曜学校(山口牧師)、強度行動障がい支援者養成研修(町田、緒方敬士、本島、保利～29)
29	日	
30	月	第3回法人理事会、エデンの園改修工事現場説明会

令和1年度 日誌 10月

日	曜	内 容
1	火	施設空調機器入れ替え工事(社会福祉充実計画～11/1)環境整備(川崎氏～2)
2	水	新任職員研修、
3	木	貯水槽清掃(有限会社ユウセイ)、口腔ケア(歯科福祉センター)
4	金	経営委員会、事故防止対策員会、研修委員会、園内研修(麦わらぼうし紹介) 中村設備工業ボランティア(屋上草取り)
5	土	土曜学校(山口牧師)、国富町ボランティア祭り(KC スピリット出演)
6	日	中村設備工業ボランティア(屋上草取り)、九州の歌声祭典(KC スピリット出演)
7	月	障がい者虐待防止・権利擁護研修(甲斐、林、那須、山路、山本) 新任職員フォローアップ研修(久保、高橋～8)
8	火	家族会おボランティア、第一福祉課会議 合併処理施設点検(産商)
9	水	園内研修(麦わらぼうし紹介)、内科診察、業務用冷蔵庫保守点検(ホシザキ何休株) 害虫駆除(ダスキンひむか)、全国盲重複施設協全国大会(大山、光森、山路～10 長崎)
10	木	じょいほっぷボクシー納車(中央競馬会補助)、美郷町障害支援区分認定調査
11	金	エデンの園改修工事入札、第4回法人理事会、新任職員採用試験、 産業廃棄物廃棄(宮崎環境保全公社)
12	土	土曜学校(印牧師)、
13	日	
14	月	体育の日
15	火	権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、サービス調整会議、記録委員会 排水管洗浄およびグリストラップ清掃(環境未来恒産業)
16	水	クラブ活動、電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
17	木	総務課会
18	金	口腔ケア(歯科福祉センター)
19	土	土曜学校(海老原牧師)家族会、法人職員会、陶芸作品販売、グループホーム見学会 一粒の麦第315号発行、社会福祉士実習指導者講習会(長友真佐子～20)
20	日	
21	月	給食連絡会(富士産業)、SKB デイサービスあっぱれ演奏会、自動ドア点検(オリエント産業)
22	火	全知協福祉関係職員研究大会(～24 甲斐、林、長嶺 鹿児島市)
23	水	環境整備、髪カット(川越理容)、エデンの園改修工事契約(森工務店)、バイブルカフェ
24	木	環境整備
25	金	環境整備、
26	土	土曜学校(金牧師)、三名まつり(KC スピリット)
27	日	
28	月	人材確保支援セミナー(櫻木)
29	火	精神科診察、第1福祉課会、宮崎中央地区交流レクリエーション(西都原公園)
30	水	事故対策員会
31	木	家族、施設連携委員会

令和1年度 日誌 11月

日	曜	内 容
1	金	経営委員会、施設空調機器入れ替え工事(社会福祉充実計画 10/1～) コミュニケーション研修(櫛谷、矢野)
2	土	土曜学校(金牧師)、医療的ケア研修(築地)
3	日	文化の日
4	月	振替休日、秋の祭りコンサート(大和田広美氏)
5	火	施設改修工事開始(～ 1/24)第1福祉課会、防災委員会、環境整備(川崎氏～7)
6	水	リーダー研修(本島事務所)
7	木	合併処理施設点検(産商)
8	金	インフルエンザ予防接種、国富町事業所交流バレーボール大会、 同行援護従事者養成研修(日高武敏)
9	土	土曜学校(印牧師)
10	日	
11	月	給食連絡会、報酬請求ソフト説明会(アクティブ情報システム、パシフィック) 障がい者虐待防止対応研修従事者コース(山本)
12	火	記録員会、権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、BCP 研修(日高武敏～13)
13	水	髪カット(川越理容)、害虫駆除(ダスキンひむか)、農福連携情報交換会(渡辺)
14	木	リーダー研修(本島事務所)、園内研修(つむぎ紹介) 電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
15	金	エデンホーム三名宮崎県指導監査、口腔ケア(歯科福祉センター) 同行援護従事者養成研修(日高武敏～22)
16	土	土曜学校(荒平牧師)、家族会、職員会、サービス管理責任者・自発管研修(大山～17) 相談支援従事者研修(宇都宮～17)
17	日	
18	月	医療的ケア推進委員会
19	火	やわらぎお里より施設見学10名、三名保育園陶芸教室
20	水	令和2年度正職員登用試験、クラブ活動、地域支援セミナー(甲斐、那須～21 千葉市)
21	木	園内研修(つむぎ紹介)
22	金	口腔ケア(歯科福祉センター)
23	土	勤労感謝の日、土曜学校(山口牧師)、令和2年度正職員登用試験 強度行動障がい支援者養成研修(五島～24)
24	日	
25	月	法人ネット化工事、障がい者虐待防止・権利擁護研修(山路)
26	火	るびなす支援学校 PTA より施設見学(20名)
27	水	合併処理施設点検(産商)、みやざき安心セーフティーネット相談支援研修会(東郷)
28	木	総合防災訓練、労働安全衛生委員会、高次脳機能障害ファシリテータ養成研修(河野泉)
29	金	事故防止委員会、相談支援従事者研修(宇都宮～30)広がれ助け合いの輪交流集会(坂元)
30	土	土曜学校(浅野牧師)、竹田地区にここ食堂、発達障害基礎研修(松下、塚本、星崎)

令和1年度 日誌 12月

日	曜	内 容
1	日	
2	月	経営委員会 園内研修(理念塾エデンホーム森永)
3	火	エレベーター点検(フジテック)、グループホーム世話人研修(安藤剛、井戸川)
4	水	リスクマネージャー研修(山路～6 東京)、管理職マネジメント向上研修(廣瀬、宇都宮) 施設看護職員研修(東屋)
5	木	園内研修(理念塾、施設)、合併処理施設点検(産商)、 九州地区障がい者相談支援事業合同研修会(渡部～6 熊本)
6	金	障がい者虐待防止・権利擁護研修(那須、林)
7	土	土曜学校(金牧師)
8	日	LPガス設備保安調査(丸キプロパン)、日中活動支援部会、全国大会(～11 北海道)
9	月	環境整備(川崎氏～13)
10	火	
11	水	
12	木	清水台通所センターへ施設見学(8名)、園内研修(理念塾エデンホーム三名) 社会福祉財務会計研修(久保～15 神奈川)電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
13	金	園内研修(理念塾麦わらぼうし)、権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、 害虫駆除(ダスキンひむか)、防災管理研修(寺田～14)、地域福祉コーディネーター養成研修(光森)
14	土	土曜学校(印牧師)
15	日	
16	月	家族会ボランティア
17	火	エデンホーム森永県指導監査、精神科診察(米良 DR)、髪カット(川越理容) 社会福祉施設長資格認定講習(山路～21)、人にやさしい食事支援研修(朝倉、池水)
18	水	記録リスクマネジメント研修(東郷)
19	木	給食連絡会、園内研修(理念塾ふれあい)、事故防止対策委員会、工賃向上リーダー研修(大山)
20	金	水道法定検査(宮崎県公衆衛生センター)、看とり委員会、社福経営協セミナー(甲斐、宇都宮)
21	土	土曜学校(海老原牧師)
22	日	
23	月	園内研修(理念塾 施設) 年末あいさつまわり
24	火	施設・ふれあいクリスマス会(みすずコーラス、三名保育園) 臨時運営委員会
25	水	つむぎクリスマス会、麦わらぼうしクリスマス会、SKB あっぱれデイサービス出前コンサート 合併処理施設点検(産商)、障がい者虐待防止・権利擁護研修(甲斐)
26	木	労働安全衛生委員会、るんるん食堂(萬福寺)
27	金	大清掃
28	土	土曜学校(山口牧師)、家族会、職員会
29	日	
30	月	
31	火	

令和1年度 日誌 1月

日	曜	内 容
1	水	元日
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	国富町賀詞交歓会、施設公用車(ボクシー)つむぎへ移管
7	火	第一福祉課会、防災委員会
8	水	経営委員会、髪カット(川越理容)、メンタルヘルス研修(谷口)
9	木	自動ドア点検(オリエント産業)、
10	金	新年会(多目的ホール、施設・ふれあい・つむぎ)、美化委員会、合併処理施設点検(産商)
11	土	土曜学校(印牧師)、害虫駆除(ダスキンひむか)、第2福祉課会
12	日	国富町成人式(KCスピリット演奏)
13	月	成人の日
14	火	権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、記録員会、環境美化(川崎氏～1/16)
15	水	チームをまとめる中堅職員メンバーシップ研修(緒方敬士) 電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
16	木	事故対策委員会、中堅職員メンバーシップ研修(保利)
17	金	口腔ケア(宮崎歯科福祉センター)会計監査(飯田事務所)、事故防止委員会、 浄化槽法定検査(宮崎県環境科学協会)
18	土	災害派遣福祉チーム研修(緒方市郎)、同行援護従事者養成研修(四位) 土曜学校(海老原牧師)家族会、法人職員会、広報委員会)、一粒の麦 315 号発行
19	日	職員会(多目的ホール)、生活支援委員会、業務改善委員会
20	月	給食連絡会(富士産業)
21	火	九知協種別部会合同研修(廣瀬、蛭原～23 沖縄)
22	水	髪カット(川越理容)、新人事評価等について協議(日本経営)、発達障害研修(金氣)
23	木	労働安全衛生委員会
24	金	会計監査(飯田税理士事務所)、施設改修工事終了・確認検査(11/5～) 咀嚼嚥下ソフト職研修(池水、山手)
25	土	土曜学校(山口牧師)、同行援護従事者養成研修(四位) 強度行動障がい支援者養成研修(町田、五島、保利、本島、河野仁美、渡部、谷口、～26)
26	日	
27	月	施設改修工事終了に伴う居室替え、医療的ケアコーディネーター養成研修(長友真佐子)
28	火	正職登用再試験、家族会ボランティア(一粒の麦発送)、精神科診察(米良 DR)
29	水	合併処理施設点検(産商)自動ドア点検(オリエント産業)、PC 入れ替え
30	木	
31	金	第7回法人理事会、平塚天清職員壮行会、グリストラップ清掃(環境未来恒産業) 高次脳機能障害研修(朝倉)

令和1年度 日誌 2月

日	曜	内 容
1	土	土曜学校(金牧師)合同研修会、利用者1名入所、同行援護従事者養成研修(四位) 県知協合同研修会(嶋原、光森、渡部、寺田)
2	日	
3	月	バスケットボール日本代表遠征(平塚～12 オーストラリア)
4	火	メンタルヘルス研修(労働安全衛生委員会主催)、コーチング研修(長嶺)
5	水	事故防止委員会、介護支援専門員実務研修(長友真佐子) サービス管理責任者児童発達支援管理責任者研修(~6 大山、保利)
6	木	合併処理施設点検(産商)、排泄ケア研修(コンチネンス事務局) 管理職のための職場のストレスマネジメント研修(東屋)
7	金	口腔ケア(宮崎歯科福祉センター) 第1福祉課会、第2福祉課会、カーテンメンテ(キングラン)
8	土	土曜学校(印牧師)
9	日	
10	月	経営委員会、会計監査(飯田税理士事務所)、害虫駆除(ダスキンひむか)
11	火	建国記念の日
12	水	権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
13	木	令和2年度入職説明会、防災設備点検(協同防災)害虫駆除(ダスキンひむか) 障がい者理解とコミュニケーション研修(井戸川)、社福経営支援セミナー(櫻木、久保) 相談支援従事者現認研修(渡部)、健康みやざき行動計画見直し(池水)
14	金	美化委員会、給食連絡会(富士産業)、事故対策委員会、認知症クリスタルカフェ
15	土	土曜学校(海老原牧師)家族会、法人職員会、はびねすの窓(第三者委員2名) 実務者多職種連携研修会(長友真佐子、東郷)
16	日	
17	月	報酬請求事務研修、グリストラップ清掃(環境未来恒産業)、防災機器取り付け工事(2F) 介護支援専門員実務研修(長友真佐子)
18	火	電気量計工事(明光社)
19	水	家族職員連携委員会、報酬請求事務研修、髪カット(川越理容)、バイブルカフェ(荒平牧師) 食品衛生責任者養成講習会(藤坂)
20	木	リーダーシップ研修(長嶺)、引きこもり支援講習会(東郷)
21	金	人事評価研修、介護支援専門員実務研修(長友真佐子)
22	土	土曜学校(山口牧師)
23	日	
24	月	
25	火	経営協総会(理事長、宇都宮、甲斐、山路)、介護支援専門員実務研修(長友真佐子)
26	水	環境整備(川崎氏～2/28)精神科診察
27	木	エリア分けによる居室移動、労働安全衛生委員会、報酬請求事務研修、会計監査(飯田税理士事務所)、合併処理施設点検(産商) 宮崎県医療的ケア児童コーディネーター養成研修(長友真佐子)
28	金	経営委員会、浄化槽清掃(産商)
29	土	土曜学校(浅野牧師)

令和1年度 日誌 3月

日	曜	内 容
1	日	
2	月	じょいほっぷ(新型コロナウイルス感染防止のため休止)
3	火	エレベーター点検(フジテック)
4	水	施設内研修(エデンホーム三名)
5	木	経営委員会、合併処理施設点検(産商)
6	金	口腔ケア(宮崎歯科福祉センター)、報酬請求事務研修、介護支援専門員実務研修(長友真佐子)
7	土	土曜学校(施設長)、
8	日	
9	月	介護支援専門員実務研修(長友真佐子)
10	火	第1福祉課会、研修委員会
11	水	内科診察
12	木	第8回理事会、害虫駆除(ダスキンひむか) 電気保安点検・測定(九州電気管理協同組合)
13	金	会計定期巡回(飯田税理士事務所)
14	土	土曜学校(施設長)
15	日	
16	月	
17	火	環境整備(川崎氏～3/19) Wi-Fi 設置工事
18	水	権利擁護・虐待防止委員会、運営委員会、人事評価プロジェクトチーム研修(日本経営)
19	木	法人第6回理事会、介護支援専門員実務研修(長友真佐子)
20	金	春分の日
21	土	土曜学校(廣瀬)、法人職員会
22	日	
23	月	給食連絡会
24	火	
25	水	髪カット(川越理容)報酬請求事務研修、支援記録研修(アクティブ情報システム)
26	木	夜間(想定)防災訓練、労働安全衛生委員会、防災委員会、 会計定期巡回(飯田税理士事務所)、環境整備合併処理施設点検(産商)
27	金	報酬請求事務研修、介護支援専門員実務研修(長友真佐子)
28	土	土曜学校(廣瀬)
29	日	
30	月	第2回評議員会
31	火	

3. 本部事業

2019年度理事会状況

開催年月日	出席者	審議事項
第1回 令和元年 6月25日	理事 6名 監事 2名 事務局 1名 計 9名	第1号議案:新役員による理事長選出について
第2回 令和元年 8月29日	理事 6名 監事 2名 事務局 1名 計 9名	第1号議案:中央競馬馬主社会福祉財団助成事業による車両購入について
第3回 令和元年 9月30日	理事 6名 監事 2名 事務局 1名 計 9名	第1号議案:障害者支援施設エデンの園改修工事について 第2号議案:入札について 第3号議案:理事長専決事項について 第4号議案:1次補正予算について
第4回 令和元年 10月11日	理事 5名 監事 2名 事務局 1名 計 8名	第1号議案:2次補正予算について
第5回 令和元年 10月11日	理事 5名 監事 2名 事務局 1名 計 8名	第1号議案:障害者支援施設改修に伴う入札結果について
第6回 令和2年 1月16日	理事 6名 監事 2名 事務局 1名 計 9名 みなし決議	第1号議案:社会福祉充実計画について
第7回 令和2年 1月31日	理事 6名 監事 2名 事務局 1名 計 9名	第1号議案:3次補正予算について 第2号議案:経理規定の改定について 第3号議案:放課後等デイサービスの定員変更について その他:障害者支援施設の改修工事完了報告
第8回 令和2年 3月12日	理事 6名 監事 2名 事務局 1名 計 9名	第1号議案:4次補正予算について 第2号議案:令和2年度事業計画について 第3号議案:令和2年度予算について 第4号議案:就業規則改訂について 第5号議案:給与規定改訂について 第6号議案:その他の諸規定改訂について 第7号議案:必要な役割を担う職員の選任及び解任及び人事について

2019年度評議員会状況

開催年月日	出席者	審議事項
第1回 令和元年 6月25日	評議員 8名 監事 2名 理事 3名 事務局 1名 計 14名	第1号議案:平成30年度事業報告及び計算書類の承認について 第2号議案:定款変更について 第3号議案:令和元年予算について 第4号議案:新役員選定について
第2回 令和2年 1月20日	評議員 8名 監事 2名 理事 3名 事務局 1名 計 14名 みなし決議	第1号議案:社会福祉充実計画について
第3回 令和2年 3月30日	評議員 6名 監事 2名 理事 3名 事務局 1名 名 12名	第1号議案:令和2年度事業計画について 第2号議案:令和2年度予算について その他:社会福祉充実計画について

2019年度社会福祉充実計画実施状況

事業名	事業内容	結果
施設整備事業	1 障害者支援施設エデンの園東館屋上塗膜工事 2 障害者支援施設エデンの園空調機リニューアル工事 3 障害者支援施設エデンの園館内LED工事	終了
車両整備事業	1 障害者支援施設エデンの園公用車(ヴォクシー)購入 2 エデンホーム森永公用車(シエンタ)購入 3 エデンホーム森永公用車(シエンタ)購入	終了

2019年度寄附金

区分	合計額	備考
法人	512,900円	
計	512,900円	

4. 各種委員会報告

権利擁護・虐待防止委員会

○目的

利用者の権利に関する内容の確認、検討と周知、研修を行う事により、利用者の権利を擁護する。

また、「虐待防止に関する規程」に基づき虐待防止体制を築き、虐待のない福祉サービス事業所を目指す。

○活動状況

- ・目的に沿って委員会を開催し職員向けの権利擁護情報「びえんと」を発行した。
- ・昨年度に続き、6月、12月にセルフチェックとアンケート調査を行い権利擁護について意識調査を行った。
- ・事業所を一組にして委員が講師となり相互に交換研修を行った。
- ・宮崎県の障がい者虐待防止・権利擁護研修に5名派遣した。

○結果

- ・身体的虐待1件（エデンホーム三名）、通報1件（エデンの園、聞き取り結果事実なし）があった。
- ・セルフチェックでは未提出者もいるなど、職員全体として権利擁護意識は高いとは言えない。

○今後の取り組み

- ・2年間、毎月権利擁護委員会を行ったこともあり委員は権利擁護意識が高まった。次のステップは、委員が主導して事業所で権利擁護を推進していく。福祉事業の基本的、優先的な課題としてとらえていきたい。
- ・意識調査は今後も継続的に行い、自身の支援を振り返る機会を持ちたい。

●各事業所の権利擁護研修報告

	エデンの園	ふれあい	エデンホーム三名
4	虐待防止の報告を受けて	倫理綱領読み合わせ	虐待について考える
5	支援プランの倫理綱領（基本姿勢）	「権利」について	利用者の嗜好品について
6	支援プランの倫理綱領（基本姿勢）	コミュニケーション方法について	最近気になっていること・利用者支援の心得
7	利用者支援から見たもの	利用者支援（食事）について	心理的虐待について・障害者虐待防止法について
8	相談支援より	職運相について・利用者のプライバシーを守ることについて	つむぎについて
9	入所施設における県への虐待報告を受けて	視覚障がいについて	利用者支援の心得
10	入所施設における県への虐待報告を受けての振り返り（高齢者施設での事例VTRを閲覧）	基本的人権と権利擁護	余暇支援について
11	利用者支援について（言葉遣い・細やかな配慮）	評価と支援の考え方	職員の間関係を良好に保つために心がけたいこと
12	権利擁護・虐待防止アンケート後の公表を受けて	自閉症支援について	金銭管理について
1	利用者Nさんの粗暴行為を利用者Tさんが受けたことに関して考える	利用者支援（こだわり行動）について	ほう・れん・そう（報告・連絡・相談）について
2	前月の利用者Nさん、Tさんへの支援についてどのような支援を行い、何を考えたか	「居場所」について利用者支援（残存能力）について	虐待について
3	自分の居場所について～なぜその場所がおちつくのか～	支援の基本を考える	利用者間での貸し借りについて

	エデンホーム森永	麦わらぼうし	つむぎ	相談
4	虐待について	倫理綱領読み合わせ	個別支援検討会議	利用者支援の在り方について
5	J Tさんの支援について	子どもの権利保障	権利擁護、虐待防止アンケートについて	利用者支援の在り方について
6	権利擁護とは何か	セルフチェックの内容解説とアンケート実施	未実施	利用者支援の在り方について
7	人権擁護ハンドブック 2008年版より	事例検討「身体拘束」	虐待防止委員会アンケート結果をうけて	利用者支援の在り方について
8	権利擁護研修	実施なし	個別支援検討会議	利用者支援の在り方について
9	担当利用者AFさんとの関わりから	アンガーマネジメント「感情のコントロール」	未実施	利用者支援の在り方について
10	氷山モデル	行動目標（理念塾）の振り返り	未実施	利用者支援の在り方について
11	視覚障害者支援について	身体拘束について	未実施	利用者支援の在り方について
12	グループホームと権利擁護	運動面から見た本人理解	未実施	利用者支援の在り方について 権利擁護・虐待防止アンケート実施
1	ホーム利用者について	合理的配慮	未実施	利用者支援の在り方について
2	10月分の復習	子どもの権利条約	未実施	利用者支援の在り方について
3	日々の支援について	実施なし	未実施	利用者支援の在り方について

災害対策委員会

○目的

法人において様々な災害を想定し、発生前、発生時、発生後の対策を協議し、法人全体での情報を共有する。また、地域の防災拠点として、地域、関係機関とのネットワークを築く。

○活動状況・結果・今後の取り組み

これまで災害対策本部設置後の連絡体制に曖昧な部分があったため、地震発生後の基本的対応法を可視化する整備は行えたが、他災害（台風、風水害等）発生時の対応は課題として残っている。また地域防災拠点としての取り組みは、以前に締結していた県との協定の担当者変更打診を行ったのみで、実際の地域ニーズ把握には至らなかった。

①災害対策会議の開催

実際に構成メンバーが集っての開催は一回だけで、その後はメンバーに向けてのアンケート（各事業所用被害状況把握チェックリスト）実施にとどまった。

②災害ネットワークに向けた整備

特に行えなかった。

③社会福祉法人間における災害時ボランティアの連携に向けた整備

特に行えなかった。

ハラスメント委員会

○目的

法人において、ハラスメントを抑止するための対策を協議すると共に、研修等の開催により法人全体での意識の共有を図る。また事案が発生した場合には、原因の分析及び必要な措置を協議し、再発防止に努める。

○活動状況

ハラスメントを抑止する為の協議および、研修は開催できていない。

（研修のための講師を見つけきれなかった。）

①ハラスメントに関する情報収集研修啓発活動

特に行えなかった。

②ハラスメントに関する相談への対応

特に案件があがらなかった。

③ハラスメントに関する事案確認及び救済措置

特に案件があがらなかった。

④その他ハラスメント防止に関する事項

特に行えていない。

ハラスメント委員会を開いて会議をする相談はなかったものの、職員よりパワーハラスメントの相談が2件あった。受付相談窓口で事実確認を行った所、ハラスメントにはあたらないことを確認した。職員間のコミュニケーション不足が原因と考えられたので、話し合いの場を設けるように指導した。

苦情解決委員会

○目的

法人において、苦情相談窓口の設置とその内容の周知を図る。また、苦情・相談の対応研修を開催するなどして、法人全体での意識の共有を行い、事案が発生した場合には、それに対する解決策を検討し対応する。

○活動状況・結果・今後の取り組み

苦情相談窓口の周知を図るため、これまで目に付きにくかった掲示物設置場所と、掲示物のサイズを改善できた。またこれまで掲示していなかった施設以外の全事業所にも掲示が行え、ご利用者や職員より、それに関する反応（見やすくなった等）も見られた。苦情相談の研修は開催できなかった。

①規定に基づく委員会の開催

構成メンバーへのアンケート等での意見の収集という形で開催した。

②職員への研修の開催

行えなかった。

③利用者に向けた苦情相談に関する掲示物作成及掲示

これまで目に付きにくかった掲示物設置場所と、掲示物のサイズを改善できた。またこれまで掲示していなかった施設以外の全事業所にも掲示が行え、ご利用者や職員より、それに関する反応（見やすくなった等）も見られた。

④ハピネスの窓（第三者委員による相談）の運営

年2回、予定通り行った。

○事業所別苦情解決（相談）報告

・障害者支援施設エデンの園

申出人	内容	対応
家族A	ショートステイ利用者の家族から帰宅時の衣類が来園時と同じものだった為、お風呂に入ったのか確認の連絡が入る。入浴は実施されていなかった。 ・不衛生なので今後は気をつけてほしい ・支援方法の見直しをしてほしい	謝罪を行い、以下の対策を伝える。ショートステイの方専用の洗濯かごを準備した。
整形外科A	通院時、病院内で不穏状態になり、混乱が見られ病院スタッフに攻撃的行動、壁を叩く等の行動が見られた。その行動や様子を見て、病院長が憤慨される。	その場では、利用者の方を抱きかかえるように車に移動した。後日、病院に出向き謝罪をする。

・エデンホーム森永

申出人	内容	対応
ほのか利用者ご家族	退居を考えている	上長・相談支援員への協力を得て、話し合いを設け、説明を行った。また、数回に渡り、家族宅に赴き、協力をお願いした。
他事業所職員	当ホーム職員が、連絡してくる。	事実確認を行い、申出人への謝罪を行った。
ホーム職員	他職員の行動について	互いに相談を受けている。上長を交え、聞き取り等を何度も行い、業務に支障が出ないように、お願いを行った。
こんぱす職員	ホーム職員の対応について	対応職員への聞き取りを行い、指導を行った。また、こんぱすへ謝罪と今後の改善策についての説明を行った。

・エデンの園相談支援事業所

申出人	内容	対応
利用者家族	相談支援専門員が作成した書類に不適切な文言が使用されており苦情の連絡が相談支援事業所へ入る。	主任が電話対応を行い丁寧な謝罪を行うとともに、再発防止に努める旨説明を行った。
他法人事業所サービス管理責任者 (令和元年 6 月 28 日)	当該相談支援専門員のケア会議時の態度についての苦情。	相談支援専門員と第 2 福祉課長を交え情報の共有と振り返り並びに再発防止についての意見交換並びに助言を行いました。

・放課後等デイサービス麦わらぼうし

申出人	内容	対応
利用児家族 A	本児の学校の帽子が事業所で紛失していないかの問い合わせを受けるも、職員間の周知がうまく出来ておらず、返事を先送りになっていた。帽子は結局見つからなかった。 ・最後まで報告してほしい	紛失等の問い合わせがあった場合は、その日のうちに事業所、公用車内を探し、結果を報告する。見つからない場合は、他児童が間違えて持ち帰っていないか等を確認することを報告期限も含めて伝える。

○はぴねすの窓（第三者委員による相談）実施報告

開催日	申出人	内容
令和 1 年 6 月 1 5 日	第 1 福祉課～ 4 名 第 2 福祉課～ 3 名 家族 ～ 0 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ A さん 外出介護時に欲しい物の希望を言ったら、たくさん持っているから、買わなくて良いのではといわれた ・ B さん 現在ふれあいを利用している。視覚障がいがある為、外での作業等は難しいが部品の組み立て等の室内での仕事がしたい ・ その他 ハピネスの窓参加、第 3 者委員の日高氏、並氏に会いに来られた方、外出が楽しい等を報告される方がいた。
令和 2 年 2 月 1 5 日	第 1 福祉課～ 7 名 第 2 福祉課～ 6 名 家族 ～ 0 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ A さん 朝の準備が出来ず、作業に行くのに他の方を待たせている。職員にも「早くしないさい」と言われるのが苦しい。やろうと思うけど出来ないから苦しい。 ・ B さん ケーブルテレビをつけてほしいが、工事費が高い、壁に穴があくからだめと言われた。 ・ C さん ドライブで港に行く計画をしてほしい。 ・ その他 絵を描いたり、外出が楽しい等、その時の気持ちを報告される方がいた。 今回家族への参加も促したが参加は 0 名だった。

労働安全衛生委員会

○目的

職場における職員の健康増進維持と安全管理の観点から、環境整備や衛生活動を推進すると共に、心の健康管理を良好に保つための調査、又は審議を行う。また、安全衛生委員会運営規程第1章総則(責務)に基づき、委員は、労働安全衛生の水準向上のために必要と認める事項に基づき、委員会による議決を経て各事業所へ建議し、常日頃から環境改善のたけ、旗振り役となる。

○活動状況・結果・今後の取り組み

メンタルヘルス研修を年2回実施することを実現できたことや、甲斐副施設長による職員の健康診断結果の点検、職員面談など、メンタルヘルス対策については、飛躍的に活動できた。上記を踏まえてのストレスチェックの結果は、現時点で回答が無いため、ストレスチェックの評価は不明であった。

メンタルヘルス不調を理由とした休職者が出たが、労災関連ではなかった。

他の委員会との連携が不十分だった。

①委員会の開催(毎月第4木曜日)

概ね毎月行ったが、開催できない月は、委員への取組み事項等を確認した。

時間帯については、事業上の無理がある意見もあり、15:30や16:00から開催の要望があった。

②各事業所の課題の抽出・改善・対策案の策定

これまでは、ハード面が強かったが、今年度は、ソフト面を強化することができた。

事業所内部で出来ていることもたくさんあるが、任せっぱなしにならず、委員会としての危険要因等への向き合い方が不十分であった。リスクの洗い出し不足が見られた。

メンタル不調者への窓口をより一層強調すべきと感じた。

年間計画自体はあるが、その時の状況によって議題が指し変わることもあるため、それに沿った計画が実行しにくかった。委員1人1人の役割認識の違いなど、自覚不足も否めなかった。

③法人内への周知

主に、職員会や委員会終了後の各事業所内での共有に任せている部分があり、周知した実績の確認を行っていないかった。

委員会の構成員の中でさえも話し合いの内容が共有されていないことがあった。

④現場へのフィードバック・指導

これまで施設の会議室が会場としていたが、2回は、別の事業所で会議を持つことができた。次年度は、機会を増やすとともに、それぞれの事業所を代表者と巡視しながら、課題抽出に取り組んでいく予定。

⑤職場環境改善に関する取り組みのチェック

各事業所へ出かけて行き、委員で事業所の様子を見ることも必要と感じた。その際、できれば委員以外の職員にも参加してもらうようにしていきたい。

会議に出席できない参加者は、今の事業所の現状を書いて提出するようにするなど、工夫の余地があった。

広報委員会

○目的

法人の集客力・採用力アップを目指し、戦略的な広報活動を行う。

○活動状況・結果・今後の取り組み

今年度より社会福祉法人エデンの園のFACEBOOK ページを作成。定期更新を行う事で、平均 300 人以上（最多 800 人以上）の方に投稿を見て頂けた為、広報活動としては有効的であることが分かった。また、機関紙「一粒の麦」も定期的に発行し配布。今年度より地域住民にも配布する事で、エデンの園周知には繋がったのではないかと思う。集客力・採用力アップに対する評価は、来年度以降に結果が出てくると予想される為、結果に対する評価は行っていない。

①会議の実施

毎月第 3 土曜日 13:30 より実施。参加率も高かったが、話し合う内容が機関紙の進捗状況が殆どだった為、毎月開催に疑問が残った。

②年 4 回の機関紙発行

年 4 回の機関紙発行を実施。しかし、特定の職員のみが編集や業者とのやり取りに携わっていた為、委員全員が関与したとは言いが難かった。委員数も現行より少なくても良いのではと感じた。

③ホームページの管理

法人ホームページは広報委員会が関与する事はなかった。

④SNS 新設・定期更新

10 月より社会福祉法人エデンの園のFACEBOOK ページを作成。定期的に法人内の出来事などを配信。しかし、各事業所からの投稿依頼等が少なく、事業所投稿の偏りはあった。

⑤各事業所のPR強化

職場内研修で行なった「事業所 PR 大会」の甲斐もあって、少しずつ事業所の宣伝に力を入れようという意識は見えたが、実際には実行に移せていない。また、広報委員会としても携わっていない。

記録委員会

○目的

法人内の職員が記録に対する意識やスキルの促進を目指す。また、法人での記録に関する様式や文言の統一を図ると共に記録短縮や多様性を目指したシステムの有効活用や新システムの導入を進める。

○活動状況・結果・今後の取り組み

年度当初に記録に対するアンケートを全職員対象で行い、実態把握を行なった。その結果、情報の共有と ICT 化を進める必要があるという結果が出た為、委員会を中心として記録媒体業者 3 社と密なやり取りを行っていった。また、それと並行して総務課の協力の下、法人全体のネット環境の整備を進め、情報共有が行える共通フォルダ活用が始まった。

①会議の開催

委員がなかなか集まらずに実施出来ない事があった。

②各事業所の記録システム・様式の把握、③職員の記録に関するニーズの把握

4・5 月記録に関するアンケートを全職員対象に実施、実態把握が行えた。その結果、ICT 化やネット環境の整備が進んだ。

④エデンの園文言集の作成

年度内に完成し、各事業所へ配布し記録委員を中心に周知を図った。

美化委員会

○目的

快適な生活環境・住居、又は快適な職場環境を法人として提供する為に、施設巡視や聞き取りなどにて情報を取得し、問題点があれば改善を図っていく。改善情報は、労働安全衛生委員会に報告し、法人全体にフィードバックすることによって、職員全体の美化意識を高めていく。

○活動状況・結果・今後の取り組み

巡視による問題点の把握や改善はある程度実施出来ているが、法人全体の美化意識の向上には今年度1年間だけでは困難であった。

①会議の開催

委員会会議の開催は、必要に応じて開催した為、「毎月」は行えなかった。

②定期的な施設巡視・聞き取り

会議での聞き取りにて情報収集は出来ていた為、不定期で行なった。

③職員への美化意識啓発

美化委員の構成メンバーは、この1年で美化意識が向上したと言えるが、他の職員の意識向上までは行なえなかった。「ただ言われたから掃除をする」に留まり、自分達からの美化に対する発言・行動は少なかった。

栄養管理委員会

○目的

エデンの園のモットーである、「おいしく、楽しく、安全に」を実現する為に、食形態、食事内容等についての協議を行う。又、衛生管理の研修を行う。

○活動状況・結果・今後の取り組み

グループホーム等、他の事業所の職員がメンバーとして入る事で、その部署ごとの良い所、問題点を知り、情報共有の場としての役割が果たせた。又、衛生教育の面からも職員一人ひとりが意識を持って活動し、感染症の対策が出来た。

①提供された食事内容と食形態について協議を行う

年度始めは、各事業所に課題を問うても、何も問題なしとの返答が多かった。何を話し合い、どう進めていくのか、暗中模索の状態であったのではないかと考えた。

②職員への衛生教育、研修を行う

当初の計画では、施設内に照準を当てたものが多かった(①、③)が、会を重ねるごとに各委員の悩み、食事を作って行く中での疑問点が挙げられ貴重な情報共有の場となった。

③嗜好調査、検食等の結果の協議を行う

毎回、特に課題を設けなくてもざっくばらんな雰囲気の中で、それぞれが工夫している点の分かり、色々なヒントを持ち帰り現場で活かす事ができた。又、衛生意識も向上できた。

医療的ケア推進委員会

○目的

法人における医療的ケアについて、利用者様の5年先、10年先を想定し、対策を協議する。その結果に基づき方向性を指し示し、法人全体での事業展開を考える。

○活動状況・結果・今後の取り組み

現在利用している対象者がいない事や、法人の意思が固まっていない為、課題が大きく、今後の事業展開を考えることは難しいと思えた。制度や動向を注視しながら展開を考えていきたい。

11月の委員会で、委員会成り立ちの考え方が違っていた事に気づいた。しかし、委員会として喀痰吸引、医療連携体制加算のマニュアルや医療機器の状態を発信できたことは良かった。研修会については大々的にできなかったが、PTと支援員が小さいながらも協力して褥瘡研修会を行ったことは、医療的ケアの必要性を伝える大きな一歩となった。また、御利用者の状態・見通しを法人内に発信した際には、反応を返してくれた事業所もあり、意味のある委員会になった。

感染症対策委員会

○目的

法人において様々な感染症を想定し、感染症発生前、発生時の対応、発生対応後の振り返りを協議し法人全体で共有する。また、地域、利用者家族への情報の発信を行う。

感染症に関する啓発、研修を行い感染症予防に努める。

○活動状況・結果・今後の取り組み

冬季の感染症拡大の時期に合わせ、委員会として発信し、事前対策を行い、インフルエンザやノロウィルスの侵入、拡大を防ぐことができた。地域への発信は難しかったが、家族会を通し家族への発信は行えた。委員会で各構成員に感染症研修を行い、自事業所の職員会で伝達講習や日々の声掛けが行え、感染症予防に繋がった。

①感染マニュアルの整備

一番の目的であったマニュアルについては、基本部分を法人で統一し、事業所ごとに詳細を変える形で、整ったマニュアルを作ることができた。

②職員、利用者に対する教育・啓発活動

構成員に対し感染症の基礎やガウンテクニック、手洗いの基本など研修を行った。構成員の意識の引き上げが成功したことで、自事業所に持ち帰りしっかりと他職員に啓発や周知を行っていた。

③感染症に対する情報収集と周知、④会議の開催

1年間で9回の定例会を開き、会議が無い月であっても文章で構成員間の情報共有を図り、感染症を出さなかった。

事故防止対策委員会

○目的

当法人における支援・介護及び看護、その他の事故を防止し、利用者及び職員の安全確保を図る為、ヒヤリハット報告を検証し、質の高い支援の提供と職員が安心して働ける体制を確立していく。

○活動状況・結果・今後の取り組み

事故やヒヤリに対する意識は高まりつつあるが、まだ、リスクマネジメントが低い職員もいる。今後は、全職員が同じ意識を持っていくシステム作り、研修等が必要だと感じた。毎月の事故・ヒヤリハットの件数等を集計結果がエデンの強みと弱みになると思われるので、来年度に活かしていきたい。

①委員会の開催(毎月第1金曜日)

毎月行った。11月と12月は課ごとに行った。委員会前には委員長、副委員長4名で事前の打ち合わせ会を開いた。第一金曜日の開催は、前月の事故・ヒヤリハットの集計等が難しかった。

②ヒヤリハット・事故報告の検証・改善・事故防止対策

各様式の改善により報告が増えた。各事業所、ヒヤリハット報告及び改善を徹底できると良いと感じた。また、報告においては事業所によって差があった。ヒヤリハットをあげない事業所、職員(事故・業務改善の意識が低い職員)への指導について委員会で統一できると良いと感じた。所属事業所の報告のみで終わることが多かった。全体向上のために他事業所にも目を向け、防止につながる意見の出る会になるとよいと思った。

③法人内への周知

事業所によって報告の仕方は異なるが、周知は行った。・構成員の意識は向上しつつあるが、取り組みを全体に浸透させるにはさらに工夫が必要であると感じた。

④現場へのフィードバック・指導

年2回、各事業所へ訪問指導を行い、そのマニュアルも作成した。現場での確認ができてよかった。初めての試みだったので、精査して来年以降も継続したい。・現場のフィードバックに関して、末端までしっかり伝わらない事業所があった。

⑤事故防止対策が適切に行われているかの確認

会議が報告で終わっていることが多い。全体での検証・改善策の確認が不足していると感じられるが、完璧な改善策を上げることや適切な実施の確認などは難しい面もある。

○各事業所のアクシデント報告状況

・障害者支援施設エデンの園

	転倒転落	怪我	食事	薬	無断外出	利用者間トラブル	金銭	物品紛失	破損損傷	車両	送迎	その他	合計
4月	0	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	8	16
5月	7	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4	15
6月	8	3	0	7	3	2	0	0	1	0	0	2	26
7月	4	1	2	6	1	0	0	0	0	0	0	3	17
8月	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	9
9月	3	0	5	2	0	0	0	0	0	0	1	2	13
10月	1	3	0	4	1	0	0	0	0	0	0	6	15
11月	7	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	4	16
12月	2	1	0	3	0	1	0	0	1	0	0	1	9
1月	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	8	14
2月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
3月	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	6
合計	39	11	9	33	10	7	0	0	2	0	2	46	159

・エデンの園ふれあい

	転倒転落	怪我	食事	薬	無断外出	利用者間トラブル	金銭	物品紛失	破損損傷	車両	送迎	その他	合計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
5月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
7月	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	4
8月	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
9月	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
10月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
11月	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
12月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
1月	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
3月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
合計	9	4	2	5	0	0	0	0	0	3	1	5	29

・エデンホーム三名

	転倒転落	怪我	食事	薬	無断外出	利用者間トラブル	金銭	物品紛失	破損損傷	車両	送迎	その他	合計
4月	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
5月	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
6月	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	5
7月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3
8月	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
11月	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
12月	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3
1月	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	2	0	7	8	1	1	2	1	2	0	4	29

・エデンの園相談支援事業所

	転倒転落	怪我	食事	薬	無断外出	利用者間トラブル	金銭	物品紛失	破損損傷	車両	送迎	その他	合計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

・エデンホーム森永

	転倒転落	怪我	食事	薬	無断外出	利用者間トラブル	金銭	物品紛失	破損損傷	車両	送迎	その他	合計
4月					2				1				3
5月				2	2								4
6月				1					1			1	3
7月	1				1							2	4
8月				2					2	1		1	6
9月				1			2					3	6
10月							1		2			8	11
11月				1					4	1		4	10
12月						1			2				3
1月			1	1						1		1	4
2月				1						1		2	4
3月													0
合計	1	0	1	9	5	1	3	0	12	4	0	22	58

・放課後等デイサービス麦わらぼうし

	転倒転落	怪我	食事	薬	無断外出	利用者間トラブル	金銭	物品紛失	破損損傷	車両	送迎	その他	合計
4月	1	2				1	1					2	7
5月	1						1		1	2		2	7
6月							1	1	1				3
7月										1		6	7
8月		1				1	1		1			4	8
9月		1					1		1	1		1	5
10月									1	1		2	4
11月											2	2	4
12月						1				1	1	2	5
1月		1							1		2	1	5
2月		1					2			1			4
3月		2							1	1			4
合計	2	8	0	0	0	3	7	1	7	8	5	22	63

・つむぎ

	転倒転落	怪我	食事	薬	無断外出	利用者間トラブル	金銭	物品紛失	破損損傷	車両	送迎	その他	合計
4月	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8月	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
10月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月													0
合計	1	0	0	1	2	0	0	0	1	1	0	3	9

○各事業所のヒヤリハット報告状況

・障害者支援施設エデンの園

	転倒・転落未遂	食事	薬	無断外出未遂	金銭	物品	車両関係	利用者の行動	送迎	施設・鍵関係	その他	合計
4月	0	0	5	0	0	0	0	2	0	0	9	16
5月	0	2	5	0	0	2	0	9	0	3	10	31
6月	7	0	6	0	0	0	0	11	0	0	15	39
7月	1	0	5	0	0	0	0	7	0	1	8	22
8月	1	0	4	0	0	0	0	0	0	1	1	7
9月	2	0	7	0	0	0	0	2	0	0	7	18
10月	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	22	29
11月	2	1	1	0	0	0	0	1	0	2	3	10
12月	2	1	3	0	0	1	0	0	0	1	0	8
1月	2	1	1	0	0	0	1	3	0	0	0	8
2月	3	3	4	0	0	0	0	2	0	0	0	12
3月	0	1	5	0	1	1	0	2	0	0	2	12
合計	20	9	46	0	1	4	1	46	0	8	77	212

・エデンの園ふれあい

	転倒・転落未遂	食事	薬	無断外出未遂	金銭	物品	車両関係	利用者の行動	送迎	施設・鍵関係	その他	合計
4月	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4
5月	0	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	6
6月	2	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	5
7月	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4
8月	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	5
9月	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	4
10月	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4
11月	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	4
12月	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3
1月	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
2月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
3月	1	3	0	0	0	0	0	6	3	0	8	21
合計	9	4	5	1	0	6	1	13	10	0	15	0

・エデンホーム三名

	転倒・転落未遂	食事	薬	無断外出未遂	金銭	物品	車両関係	利用者の行動	送迎	施設・鍵関係	その他	合計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	4
6月	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
7月	0	0	2	0	1	0	0	0	1	2	2	8
8月	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
10月	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11月	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	4
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	10	1	1	0	0	0	2	2	8	24

・エデンの園相談支援事業所

	転倒・転落未遂	食事	薬	無断外出未遂	金銭	物品	車両関係	利用者の行動	送迎	施設・機関係	その他	合計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	5	8

・エデンホーム森永

	転倒・転落未遂	食事	薬	無断外出未遂	金銭	物品	車両関係	利用者の行動	送迎	施設・機関係	その他	合計
4月											2	2
5月			1	1			1				2	5
6月											3	3
7月	2		1								8	11
8月			1								2	3
9月	1	3	2		1		1				9	17
10月	1		2			3					7	13
11月						3	1				15	19
12月	3		1				1				13	18
1月			3			1				1	4	9
2月			3							1	4	8
3月												0
合計	7	3	14	1	1	7		0	0	2	69	108

・放課後等デイサービス麦わらぼうし

	転倒・転落未遂	食事	薬	無断外出未遂	金銭	物品	車両関係	利用者の行動	送迎	施設・機関係	その他	合計
4月				1		5				3	6	15
5月			3		2	1	2			2	7	17
6月					2	1			5		3	11
7月					1	1			2	3	12	19
8月									1	3	1	5
9月										2	5	7
10月					1	1				1	11	14
11月						1	2			5	5	13
12月						1					9	10
1月						1	2			2	3	8
2月					1	6			1	5	17	30
3月			2		2					4	6	14
合計	0	0	5	1	9	18		0	9	30	85	163

・つむぎ

	転倒・転落未遂	食事	薬	無断外出未遂	金銭	物品	車両関係	利用者の行動	送迎	施設・機関係	その他	合計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
7月	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
8月	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3
9月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
12月	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
1月	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
3月												0
合計	2	0	1	3	0	0	1	4	3	0	2	16

防災委員会

○目的

各事業所において、利用者及び職員の安全確保するため、緊急時に速やかな対応が出来るよう体制を整備する。また、防災教育などを通して防災の為の事前対策を講じ、非常災害に対する適応力を高める。

○活動状況・結果・取り組み

安全確保の為、各事業所内の危険個所の洗い出しを行い、適切な対応を行うことが出来たが、非常災害時の統一した動きをするためのマニュアル整備が進んでいない。また、防災教育などを進める事が出来なかった。全体として非常災害に対する適応力はあまり向上していない。

①年間計画に基づき、防災計画の企画、実施

年間計画通りに出来なかった。新人教育という点では、各事業所でバラつきがあった。救命法研修を実施出来なかった。

②会議の開催

防災委員会前の別会議が長引くことが多々あり、15:00に開催することが出来なかった。

③地震防災活動隊兼自衛消防隊組織及び任務分担表の作成

施設では作成できた。防火管理責任者の職務に入っているが、作成の有無の確認を行っていなかった。

④備蓄品の管理

各事業所で、現在の状況を確認することは出来たが、必要数を準備するに至らなかった。

⑤防災計画、防災マニュアルの見直し

年度初めに、計画・マニュアルの確認は行ったが、見直し、訂正は行わなかった。

⑥管轄消防署への消防計画の届け出

防火管理責任者の職務であるが、防火管理責任者との確認を行わなかった。構成員は、消防計画と消防訓練計画書を混同していた。

⑦災害対策委員と協同し、防災拠点の準備を進める。

災害対策委員も、防災委員と兼務している方もいるが、災害対策委員会と協同することはなかった。

●各事業所の防災訓練報告

	エデンの園		ふれあい		エデンホーム三名		エデンホーム森永		まわらぼうし		つむぎ	
4												
5	防火教育						避難訓練	地震				
6							総合防災訓練 (青い鳥)	火災				
7	火災総合防災訓練	火災	避難消火搬出救出	地震	総合防災訓練 (ホームみらい)	夜間 火災	総合防災訓練 (ほのか)	火災				
8							避難訓練	火災				
9	非常食提供訓練										避難消火搬出救出	火災
10							避難訓練	台風				
11	地震総合防災訓練	地震					総合防災訓練 (青い鳥)	地震				
12							避難訓練	火災	通報・避難消火	火災		
1							総合防災訓練 (ほのか)	火災	避難・搬出	地震		
2			避難消火搬出救出	地震 火災				火災				
3	夜間防災訓練	夜間 火災			総合防災訓練 (ホームみらい)	夜間 火災	初期動作訓練	火災			避難消火搬出救出	地震

研修委員会

○目的

職員のスキルアップを図る為、研修の年間計画作成と運営を行い、サービスの質の向上に努める。また、法人や事業所内での職場内研修を強化することを目指し、計画と運営を行う。

○活動状況・結果・今後の取り組み

年間計画を元に職場内研修の毎月実施、職場外研修の管理を実施。毎月開催の職場内研修は年間計画から途中内容を変更し、事業所 PR 大会や事業所見学会を実施。賛否両論あったが、今年度の大きな目標に挙げた「チーム力・コミュニケーション力向上」を意識した研修プログラム構成・実施が出来た。

①会議の開催

毎月開催。内容も具体的に話し合わせ、実行・改善されていった。

②職場内研修の年間計画を作成し実施運営を行う

計画通りに職場内研修を実施。8月に下半期の研修内容の再検討を行い、事業所 PR 大会や事業所見学会に内容を変更し、実施。

③職場外研修の年間計画に基づいて運営を行う。

予め年度当初に予定されている研修を計画として各事業所に配布。しかし、途中で入ってくる研修案内等もあり、非常に煩雑となり管理が難しかった。

④新任研修プログラムに基づいた教育育成を行う

4月より新入職員研修を実施。振り返り面談も実施していく事で新任職員のケアが行えた。しかし、事業所によっては新任職員研修に対して難色を示す事業所もあり、中途採用者研修は特に調整が難しかった。その為、研修フローチャートの案を作成し、今後運用していく予定。

⑤教育機関からの実習受け入れ調整を行う

研修委員が一挙に請け負う形となり、情報共有や実習生対応が難しかった。各事業所での受け入れ態勢の整備が必要だと感じた。

◎平成31・令和元年度研修参加状況

○県内研修

研修名	開催日	研修先	参加者
2019年度宮崎県経営協総会セミナー	5月14日 8月5日 12月20日 2月25日	シーガイアコンベンションセンター	事務局員 施設長 副施設長
福祉の基礎知識習得研修	5月22日	社会福祉研修センター	生活支援員 事務局員
新任職員スタートアップ・フォローアップ研修（障がい児・者）	5月23日24日 10月7日8日	社会福祉研修センター	生活支援員 事務局員
タイムマネジメント研修 中堅職員編	6月4日	社会福祉研修センター	生活支援員 相談支援専門員
タイムマネジメント研修 チームリーダー編	6月5日	社会福祉研修センター	生活支援員
チーム力を高めるコミュニケーション研修 初任者編1	6月6日	社会福祉研修センター	生活支援員
機能するキャリアパス構築と人材育成のための活用研修	6月13日14日	社会福祉研修センター	事務局員
チーム力を高めるコミュニケーション研修 中堅職員編1	6月19日	社会福祉研修センター	作業指導員
部下のやる気を伸ばすコーチング研修1	6月28日	社会福祉研修センター	相談支援専門員 児童指導員
福祉施設における食の安全・安心研修	7月2日	宮崎観光ホテル	世話人 管理栄養士
記録技術研修（障がい児・者）	7月3日	社会福祉研修センター	作業指導員 世話人
地域福祉コーディネーター養成研修	7月10日31日 8月26日 9月18日 12月13日	宮崎観光ホテル	事務局員
就業支援基礎研修	7月10日16日	ポリテックセンター宮崎	作業指導員
社会福祉法人理事研修	7月11日	社会福祉研修センター	法人役員

認知症の基本理解研修	7月19日	宮崎観光ホテル	世話人
問題解決能力スキルアップ研修1	7月25日	社会福祉研修センター	生活支援員 目標賃達成指導員
問題解決能力スキルアップ研修2	7月26日	社会福祉研修センター	児童指導員
チーム力を高めるコミュニケーション研修 チームリーダー編	7月31日	社会福祉研修センター	生活支援員 児童指導員
みやざき安心セーフティネット事業相談員研修	8月1日2日 11月27日	シーガイアコンベンションセンター	事務局員 相談支援専門員
職務を通じて部下を育てるOJT研修(前期・後期)	8月1日2日 9月27日	社会福祉研修センター	作業指導員
喀痰吸引等研修	8月19日20日 8月26日27日 9月2日3日 9月9日10日	宮崎東病院	生活支援員
ミーティングのすすめ方研修	8月29日	社会福祉研修センター	生活支援員 相談支援専門員
応急手当普及員研修	9月18日	応急手当研修センター	サービス管理責任者
強度行動障害支援者養成研修	9月28日29日	社会福祉研修センター	生活支援員 世話人
利用者主体支援研修	10月4日	社会福祉研修センター	児童指導員
障害者虐待防止・権利擁護研修	10月7日 11月11日25日	シーガイアコンベンションセンター	副施設長 課長 生活支援員
防火管理新規講習	10月9日10日 11月13日14日	宮崎県東諸県広域防災センター	サービス管理責任者
サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者養成研修	10月16日17日 12月5日 2月5日6日	宮崎観光ホテル 宮崎市民プラザ	目標賃達成指導員
相談支援従事者初任者研修	10月16日17日 10月29日30日	宮崎観光ホテル	事務局員 課長
社会福祉士実習指導者講習会	10月19日20日	社会福祉研修センター	相談支援専門員
人材確保支援セミナー	10月29日	ハローワーク宮崎	事務局員
チーム力を高めるコミュニケーション研修 初任者編2	11月1日	社会福祉研修センター	生活支援員
同行援護従事者養成研修	11月8日15日22日 1月18日25日 2月1日	J A A Z Mホール	サービス管理責任者 理学療法士
BCP(事業継続計画)策定研修	11月12日 11月13日	社会福祉研修センター	サービス管理責任者
高次脳機能障害ファシリテーター養成研修	11月28日	宮崎県総合保健センター	理学療法士
人材アセスメント研修	11月29日	社会福祉研修センター	サービス管理責任者 事務局員
発達障害支援者基礎研修	11月30日	南九州大学	生活支援員 世話人 児童指導員
施設看護職員研修	12月4日	シーガイアコンベンションセンター	看護師
管理者マネジメント力向上研修	12月4日	社会福祉研修センター	事務局員
人にやさしい食事支援研修	12月7日	社会福祉研修センター	看護師 管理栄養士
記録におけるリスクマネジメント研修	12月18日	社会福祉研修センター	相談支援専門員 児童指導員
メンタルヘルス研修 チームリーダー編	1月8日	社会福祉研修センター	生活支援員
チームをまとめる中堅職員メンバーシップ研修1・2	1月15日16日	社会福祉研修センター	生活支援員 世話人
災害派遣福祉チーム員研修	1月18日	社会福祉研修センター	看護師
発達障がい研修	1月22日	社会福祉研修センター	生活支援員
租借嚙下&ソフト食研修	1月24日	シーガイアコンベンションセンター	世話人 管理栄養士
強度行動障害支援者養成実践研修	1月25日26日	社会福祉研修センター	世話人 生活支援員 サービス管理責任者 相談支援専門員
宮崎県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	1月27日28日 2月27日28日	社会福祉研修センター	相談支援専門員
高次脳機能障害研修	1月31日	宮崎県総合保健センター	看護師
宮崎県知的障害者施設協議会 合同研修会	2月1日	社会福祉研修センター	事務局員 生活支援員 児童指導員 相談支援専門員
部下のやる気を伸ばすコーチング研修2	2月4日	社会福祉研修センター	生活支援員
社会福祉法人監事研修	2月5日	社会福祉研修センター	法人役員
介護支援専門員実務研修	2月5日17日 21日25日 3月6日9日 19日25日	J A A Z Mホール	相談支援専門員
管理職の為の職場のストレスマネジメント研修	2月6日	社会福祉研修センター	看護師

障がい者理解とコミュニケーション研修	2月13日	社会福祉研修センター	世話人 作業指導員 理学療法士
社会福祉経営支援セミナー 会計財務管理研修	2月13日	シーガイアコンベンションセンター	事務員
相談支援従事者現認研修	2月13日	KIRISHIMAツツブキ武道館	相談支援専門員
チーム力を高めるコミュニケーション研修 中堅職員編2	2月14日	社会福祉研修センター	生活支援員
実務者多職種連携研修会	2月15日	宮崎県総合保健センター	相談支援専門員
食品衛生責任者養成講習会	2月19日	高鍋保健所	サービス管理責任者
チームビルディングのためのリーダーシップ研修	2月20日	社会福祉研修センター	生活支援員
ひきこもり支援講演会 相談対応事例検討会	2月20日	宮崎県精神保健福祉センター	相談支援専門員

○県外研修

研修名	開催日	研修先	参加者
九州知的障害者施設協議会 第1回日中活動支援部会	5月17日	福岡県	施設長
2019年度全国盲重複研修委員会	6月6日7日	東京都	施設長 サービス管理責任者
全国盲重複研第20回職員研修会	7月3日～5日	福井県	生活支援員
九州知的障害者施設協会日中活動支援部会 全国施設長会	7月21日～23日	神奈川県	施設長
全国社会福祉法人青年会基礎講座	7月24日25日	東京都	事務員
九州知的障害者施設協議会 施設長研修大会	9月19日20日	熊本県	施設長 課長
全国盲長研大会	10月9日10日	長崎県	副施設長 事務局員 目標工賃達成指導員
全国知的障害者施設協議会 日中活動支援部会 全国大会	12月8日11日	北海道	施設長
全国知的障害者福祉関係職員研究大会	10月22日～24日	鹿児島県	副施設長 課長 生活支援員
令和元年度地域支援セミナー	11月20日21日	千葉県	副施設長 課長
リスクマネージャー養成研修	12月4日～6日	東京都	副施設長
社会福祉施設長資格認定講座	12月17日～21日	神奈川県	副施設長
九州地区障害者相談支援事業合同研修会	12月5日6日	熊本県	相談支援専門員
九州知的障害者施設協議会 種別部会合同研修会	1月21日22日	沖縄県	施設長 サービス管理責任者

5. 第1福祉課

第1福祉課課長 林 裕一

1. 重点目標

項目	評価点	評価
<p>1. 人として当たり前の生活、自分らしい生活を目指します。</p> <p>①生活の基本である、衣・食・住に対し、更なる改善を図ります。</p> <p>②第三者の前で、胸を張って行える支援を目指します。</p>	3・ 2 ・1	<p>①TPO に応じた衣類等に配慮できるように、朝礼などで確認を行ったことで、職員への意識づけを図ることができ、改善がみられた。又、家族連携委員会で出た意見を検討し、要望に応じることができた。食事に関しては、「美味しく・楽しく・安全に」をモットーに管理栄養士が中心となり、嚥下調整食を導入することができた。グループホーム（ホームみらい）においては、職員自前の食事提供を12月より開始し、リクエストにも応えることができた。</p> <p>②事業所で権利擁護研修を実施した。障がい者支援施設、グループホームで虐待の疑いにて2件の通報を行った。再発防止に向けて、支援の悩み事、困りごとを確認し、ミーティングや個別の事例を皆で考える等実施。又、個別の面談も実施し改善に努めた。支援に困った時には、すぐに相談、共有できる仕組み作りが必要。</p>
<p>2. 特徴のある事業所づくりを目指します</p> <p>①各事業所で特徴のあるサービス、活動を作ります。</p>	3・ 2 ・1	<p>①「ふれあい」においては、音楽活動を通して地域活動や他事業所訪問を実施した。音楽活動を通して、他事業所との繋がりを持たせた事は今後のふれあいの活動の手掛かりとなったと思われる。事業所アピールで数カ所の相談支援事業所を訪問。新規契約には結びつかなかったが、今後も様々な事業所の訪問は継続していく。</p>
<p>3. 地域とのつながりを強くします。</p> <p>①地域の行事に積極的に参加します。</p> <p>②三名地区の防災拠点の準備を進めます。</p>	3・ 2 ・1	<p>①グループホームの利用者は地区の清掃活動に2回参加した。ふれあいでは、地域のゴミ拾いを実施し、地域貢献への手掛かりとすることができた。</p> <p>②具体的な取組は出来なかった。国富町役場、国富町社会福祉協議会と連携の必要性を感じている。令和2年度から、防災委員会を中心に備蓄品の整備を進めていく。</p>
<p>4. 感染症予防に努めます。</p> <p>①研修、啓発等を通して、感染症に対する意識付けを図ります。</p>	3・ 2 ・1	<p>①各事業において、感染症予防の研修や予防に対する言葉かけを続けた結果、職員の意識も高まり、感染症が発生することはなかった。</p>
<p>5. 社会生活支援を進めます。</p> <p>①関係機関と連携をとりながら、地域生活の可能性を探ります。</p> <p>②地域活動、体験の場を設けます。</p>	3・ 2 ・1	<p>①については、具体的な取組ができなかった。</p> <p>②ふれあい、エデンホーム三名が地域での活動に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森永デイサービスセンターで2回、あっぱれデイサービスにて1回ミニコンサートを実施した。 ・国富町、三名地区の清掃活動に参加。 ・国富町主催の「ふれあいレクリエーション」に参加。 ・3月に「第2回くにとみ春風コンサート」を企画したが、新型コロナウイルス対策のため中止。

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

6. 障害者支援施設エデンの園

サービス管理責任者 蛭原 翼

1. サービス実績

○生活介護支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21	23
延べ人数	1216	1282	1215	1269	1223	1227	1270	1257	1328	1302	1188	1323
1日平均	55.27	55.74	55.23	55.17	53.17	55.77	55.22	57.14	57.74	56.61	56.57	57.52

○施設入所支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
延べ人数	1794	1845	1781	1805	1750	1749	1814	1788	1824	1764	1731	1884
1日平均	59.80	59.52	59.37	58.23	56.45	58.30	58.52	59.60	58.84	56.90	59.69	60.77

2. 重点目標

項目	評価点	評価
<p>①生活の基本である衣食住に対し、更なる改善を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣：TPOに応じた、快適で清潔な服装に配慮します。 ・食：個々にあった食事支援を行い、健康的な身体づくりを目指します。 ・住：居室の清掃を定期的に行い、清潔な環境にします。 	<p>3・2・1</p> <p>3・2・1</p> <p>3・2・1</p>	<p>障がい特性等にあわせたエリア分け・環境整備を行った。エリア分けの扉、ゆりエリア（2階）に浴室の設置、全エリアのトイレ床の張替え等の改修工事を実施。構造化支援エリア（ゆり棟）を新設し、個別支援が充実出来る様にした。また、エリア毎で食事を含めた日課を送る事で充実した支援と業務の効率化が少しずつ改善されてきている。職員の意識改革として、朝礼、終礼、職員会等で繰り返し呼びかけし、職員間で目標の共通認識を図り、日々意識向上を図ったことで、徐々によ良くなってきた。</p> <p>衣・食・住に関する評価は、各エリアの報告を参照。</p>
<p>②権利擁護の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者の前でも、胸を張って行える支援を目指します。 ・利用者の意思決定及び人権を尊重し、虐待のない支援を行います。 	<p>3・2・1</p> <p>3・2・1</p>	<p>毎月の施設内職員会で権利擁護の研修を実施。支援プランの基本姿勢の項目の読み合わせ、虐待防止のチェックリスト、利用者支援・障がい特性に関する勉強会、職員によるデモンストレーション、グループワーク等を実施。権利擁護研修後の職員の声を聞き、研修の振り返りをし、次月の研修等に繋げる事が出来た。また、利用者支援に関しては個別支援計画と併せて、丁寧で根拠のある支援を繰り返し、呼びかけた。</p>
<p>③感染予防に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修、啓発などを通して感染症に対する意識付けを行います。 	<p>3・2・1</p>	<p>今年度はインフルエンザ、感染性胃腸炎等の感染者はゼロで重点目標をクリアした。</p> <p>今年度もその都度、職員に朝礼終礼で感染対策の呼びかけをし、意識付けを実施していく。職員自身が感染症を持ち込まない、拡げない意識も年々高まってきたと感じた。</p> <p>現在は、コロナ対策を中心に呼びかけ対策を実施中。</p>

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

3. 活動報告

①花の街

方針（目的）	一人ひとりの障害の特性・個性または、加齢による心身の変化を理解し、潤いと意欲を持ってその人らしい活力のある生活を営める環境を構築します。また、状態の変化に気付けるよう日々の観察を小まめに行い健康の維持を図ると共に心身の廃用症候群を防止するために残存機能を活かす支援を行います。		
支援内容	支援の実施	支援の実施による影響	評価
(住) 居住環境 ① 個々人の障がい特性、身体能力に応じた居住環境を整備し快適で安心感のある居住環境を所属棟職員、医務職員と連携し整備します。 ② 毎週1回シーツ交換日に各居室の清掃・電動ベッドの消毒等を行い感染防止に努めます。 ③ 棟内の清掃・消毒・破損箇所など棟内職員全員で確認し対処し利用者に不利益が起らないようにします。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 居室の清掃等を随時行い、転倒等の事故が発生した場合には医務職員、担当職員と話し合い転倒防止クッション等を設置するなどの対応を行った。また、棟内の清掃も随時行いましたが、電動ベッドの消毒、手すりの消毒等感染対策が不十分だった。	A (B) C
(衣) 衣類 ① 担当職員を中心に月1回は各利用者の衣類を確認し必要があれば購入するなどの対応を行います。 ② 各利用者の衣類の状況を職員同士で共有し、花の街棟全体で協力し季節に合わせた衣類の提供を行います。 ③ 5月・9月・10月には各担当職員を中心に衣替えを行います。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 月一回の衣類の確認を担当職員を中心に行ったが、気温・季節・個々人の健康状態に合わせた衣類の整備が後手後手になり、体調を崩されるご利用者もいた。衣替えは計画通りに行った。	A (B) C
(食) ① 個々人の障がい特性・性格等を考慮した食事環境を花の街全体で整備します。 ② 個々人の身体的機能・特徴を考慮した食事の提供を多職種と連携し提供します。 ③ 食事摂取状況を随時確認し、何か変化がある時にはすぐに対応します。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 担当職員を中心に管理栄養士と話し合い個々人の健康状態、身体機能に合わせた食事を提供する事が出来た。自力での摂取を促す為に食器の種類を変える等の対応も行った。	A (B) C
排泄 ① 24hシートを活用し個々に合わせた排泄時間を調査し実施します。 ② 破折時に使用する福祉用具・消耗品の検討を随時行いその状況に合わせた排泄支援を花の街棟職員・医務職員等と連携し考察・実施を行います。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 個々に合わせた排泄誘導等を行った。しかし、24hシートの活用までには至らず、また、今年度は泌尿器系の疾患に罹患するご利用者もおり、尿量計測を随時必要とされる利用者も増え、排泄に関する個々人の身体的変化が多く見られ、パットの種類など煩雑になる事がしばしば見られた。	A (B) C
睡眠 ① 24hシート・日誌を活用し睡眠状況を確認し生活の一部としての「睡眠」と捉え健康上・身体・精神面等に支障がある場合には花の街棟職員・医務職員と連携し対応策を考え緩和・改善する方法を模索します。 ② 季節感・本人の好みを考慮した寝具・衣類を準備し快適で安全な睡眠環境を整えます。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 季節に応じた寝具の準備はできたが、本人の好みを考慮した寝具・衣類の準備は行ったものの、果たして本人の希望する物かどうかは不明慮な部分があると感じた。また、起床後に傾眠傾向がある方もおられ、睡眠が適切に出来ているか調査はしたものの、的確な周知不足が目立ち統一した支援とはならなかった。	A (B) C
入浴 ① 加齢による身体状況の変化を考慮し3回の入浴を男女別にしています。 ② 個々の好み・趣味等を活かした衣類・石鹸等を利用者本人と遊び生活に潤いの意味を持たせる入浴を提供します。 ③ 残存機能を活用し「できること」への維持を大切にし、且つ安全に配慮した入浴支援を提供します。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 今年度も週3回の入浴を適切に行う事が出来ました。本人の好みを取り入れ、個人用のシャンプーなどを購入しています。しかし、健康面に配慮したものの楽しみとしての入浴としては不十分でした。	A・B (C)
余暇 ① 個別支援計画・24hシートに沿って個々人の余暇時間とその内容の充実を図ります。 ② 個別支援計画書・リハビリ計画書に沿った余暇活動を楽しみのある余暇への転換考察・実施・評価を行います。 ③ 個々人の1日のプログラムを掲示し利用者・職員共にわかりやすく、動きやすい環境を整えます。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 個々人の1週間の予定を整備しホワイトボードに張り掲示した、しかし、入浴・トイレ誘導等を優先してしまい上手く個別の作業に取り組めない事が多くあった。リハビリ計画の内容の実施も同じものに偏る事が多くあり、日常生活動作の緩慢になりつつある状況も見られた。	A (B) C
介護予防 ① リハビリ計画書に沿った機能維持訓練・生活動作を行います。 ② 1日のプログラムに機能維持運動を取り入れていきます。 ③ 3ヵ月ごとに理学療法士と評価を行い新たなプログラムが必要な場合には共に模索していきます。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 リハビリ計画に沿った機能維持訓練を1日の中に取り入れたが、トイレ誘導・入浴の影響と関係が偏りが見られバランスよく実施する事ができなかった。	A (B) C
健康面 ① 健康チェック時に検温等身体を観察を行います。 ② 入浴時に身体を観察を行います。 ③ 手洗い・手指消毒の徹底を行います。 ④ 職員は通勤時の服装と支援に当たる服装が一緒にならないように、上着を着替えるなど工夫を行います。 ⑤ 入退院の際には担当職員だけに任せるのではなく花の街棟全体で対応します。また、退院後は最低14日経過するまでは経過観察を重点的に行います。	実施・一部実施・未実施 評価	良好・変化なし・悪化・不明 毎朝健康チェック時に検温・血圧測定を行い異常がある場合には医務職員に連絡し指示を仰いだ。また、入浴後の身体検査も行い皮膚疾患へ処置等を行い、浴室内に個々人の処置内容を掲示するなどの対応を行った。 今年度は3名の方が入院したが退院後、14日間は経過観察を行い、医務職員と連携し徐々に元の生活へ戻すように対応した。	A (B) C

●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

4月より3名体制にて生活支援を始めた。3名の対応、職員の動きをある程度決め周知したものの職員同士の協調性・配慮不足により円滑な支援体制を確立する事が出来なかった。トイレ誘導や入浴等に気を取られ、また、清掃に集中し過ぎホール内での個々人のプログラム提供（作業提供）が出来ず、身体機能の低下や利用者の変化に気付くのが遅いこともあり、担当職員に問題解決を任せってしまう傾向も見られ、職員同士の協調性の欠如、細かな利用者への配慮など不十分で体調不慮への予防、豊かな生活への提供が上手くできなかった。今後は再度、1日の職員の動きの再整備、機能維持訓練の円滑な実施、職員の専門職としての再構築を図る必要があると班ミーティングを活用した花の街独自の研修を行うなどの必要があると感じた。

②ゆりの街（ショコラ）

方針（目的）	障がい者の特性を理解し居住環境を整え、1人・1人の障がい特性・個人の特性を考慮した上で衣・食・住の充実を図りより良い社会生活を営む事が出来るように利用者とともに歩く姿勢を基本とした生活支援を目指していきます。		
支援内容	支援の実施	支援の実施による影響	評価
1・（住） ① 個人個人の障がい特性・性格等を考慮した居住環境を各担当職員を中心にショコラ班全体で取り組み整備を行います。 ② 毎日、居住環境内の清掃・消毒を行います。 ③ 各利用者の居室内・寝具等の破損・汚染等をショコラ班全体で確認し対処し利用者に不利益がおおらないようにします。	実施 ・一部実施・未実施 評価	良好・ 変化なし ・悪化・不明 担当職員を中心に取り組み、班職員の意見も取り入れながら整備したものの、定期的な清掃・消毒が不十分で居室内が汚れていたり、破損した物の修理が連絡不足・業者との兼ね合いの関係で対処できていない部分が多くあった。	A・ B ・C
2・（衣） ① 担当職員を中心に月1回は利用者の衣類を確認し必要があれば購入するなどの対応を行います。 ② 各利用者の衣類の状況を職員同士で共有し、ショコラ班全体で協力し季節に合わせた衣類の提供を行います。 ③ 5月・9月・10月には各担当職員を中心に衣替えを行います。	実施 ・一部実施・未実施 評価	良好・ 変化なし ・悪化・不明 担当職員を中心に衣替えを実施する事が出来た。また、ご家族のご協力もあり、季節に合わせた衣類の整備が出来たが、秋から冬に変わる気候の変化が不安定であったもののその日の気候に合わせた衣類の調整、就寝時のパジャマ更衣・入浴後の靴下を履くなど細かな配慮が不足している事が多々見られた。	A・ B ・C
3・（食） ① 個人個人の障がい特性・性格等を考慮した食事環境をショコラ班全体で整備します。 ② 個人個人の身体的機能・特徴を考慮した食事を多職種と連携し提供します。 ③ 食事摂取状況を随時確認し、何か変化がある時には直ぐに対応します。	実施 ・一部実施・未実施 評価	良好・ 変化なし ・悪化・不明 担当職員・管理栄養士・PT・サービス管理責任者等と連携し個人個人に合わせた食事提供の検討・実施を行う事が出来た。食事に関する変化があった場合にはショコラ班職員でまず話し合い、支援内容等の見直しを行った。	A・ B ・C
健康面 ① 健康チェック時検温等身体を観察を行います。 ② 入浴時に身体を観察を行います。 ③ 手洗い・消毒の徹底を行います。 ④ 職員は通勤・退勤時の服装と支援に当たる際の服装が一緒にならないように上着を替える等の工夫を行います。 ⑤ 入退院の際には担当職員に任せるのではなくショコラ班全体で対応します。また、退院後は最低14日間経過するまでは経過観察を重点的にを行います。 ⑥ 前年同様、ショコラ室を使用した構造化支援を提供します。	実施 ・一部実施・未実施 評価	良好・ 変化なし ・悪化・不明 毎朝、健康チェックを行い異常がある時には医務に報告し処置・対応方法を聞き、その後の防止策をショコラ班職員・医務・サービス管理責任者と話し合い実施した。また、各職員、手洗い・手指消毒を促していると共に、通勤時に上着を羽織るなどの対応を行った。	A・ B ・C
職員資質向上 ① 3ヶ月に1回はショコラ班職員で職場内研修を実施します。 ② 月1回、ショコラ班会議を開き情報の共有・個人レベルでの支援方法の検討を行います。 ③ 自分の考えに固執せず、他職員の意見も取り入れて生活支援を展開します。	実施 ・一部 実施 ・未 実施 評価	良好・ 変化なし ・悪化・不明 ショコラ班ミーティングを月一回行った。1回につき3つの議題について話し合いエリア分けに向けての準備を始め個人レベルの生活支援の検討・個別支援計画書の班の意向など話し合った。しかし、構造化等、自閉症支援に固執する体制が全職員否めず、ソーシャルワーク理論の考えが薄くなり他者の意見を取り入れ、違う視点で物事をみる姿勢が足りなかった。	A・ B ・C
家族との連携 ・ 利用者の状況報告を家族会の日、電話連絡等を活用し家族に伝えます。 ・ ご家族の会話を通す中で、何か要望があった場合には一人で考えるのではなく班全体若しくは上長と相談しご家族の要望に応えます。 ・ 計画書の内容は必ずご家族に分かりやすい様に説明しご理解と同意を得た上実施します。	実施 ・一部 実施 ・未 実施 評価	良好・ 変化なし ・悪化・不明 家族会の日を活用し、専任職員を中心とした連絡伝達を行う事が出来、また、各担当職員も丁寧で分かりやすい言葉での計画書での説明等を行う事が出来た。	A・ B ・C

●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

健康で楽しみのある生活を目指して日々の支援を行ったが、利用者一人一人の変化に対応する際に担当職員へ比重が重くなり結果対応が後手になることが多く見られたため、6月よりショコラ班全体で話し合い物事を決めていくチームワークを基本としたスタイルへと転換した。それにより、支援方法の視野が広がりよりより方向へ進み、医務職員との連携も良くなり質の良い支援方法を行うことができた。反面、身体上の変化がある利用者が3名見られ入院をされた利用者も2名いました。身体上特に内部疾患への対応が今後重点的になってくるように感じられ、健康面に配慮しながら日々の生活を豊かにする生活支援の提供が必要であると感じた。

③れんげの街

方針（目的）	『衣・食・住』を基本に考え、生活環境を整える。また、理学療法士を交え、リハビリテーションを促進し、身体的機能の維持、向上を目指します。		
支援内容	支援の実施	支援の実施による影響	評価
1. 衣類について ①季節に応じた衣類を準備し、身なりに気を配ります。 ②衣替えの時期には持ち物を見直し、適宜購入・処分を検討します。 ⇒日課中に、入浴かごの入れ替えや衣替えの時間を確保します。	実施 ・一部実施・未実施	良好・ 変化なし ・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	普段の身なりや、季節・気候にあった衣類を着用していただくように配慮した。気温が高い時に、厚手の上着を着ている利用者の方もいたが、その都度、言葉かけで説明を行い、衣類の調整を行った。衣替えの時期には、衣類のチェックを行った。処分等もご家族に協力を仰ぎながら、ご自宅にて処分や担当が処分を行った。入浴かごの整理に関しても、入浴後にかごの中身を整理した。	
2. 食事について ①食堂にて食事をを行います。 ②管理栄養士と連携を取り、一人ひとりの状態に合わせて食事形態等を随時見直し、美味しく楽しい時間となるようサポートします。	実施・ 一部実施 ・未実施	良好 ・変化なし・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	食堂にて食事を提供した。食事場所の選定を行ったが、他エリアとの兼ね合いで、座る場所の変更はできなかった。しかし、試験的に、特定の利用者の席変更等は行い、情報収集を行った。また、管理栄養士と連携を図り、食事形態等を常に見直し・検討を行った。食事する際、各利用者の特徴を理解し、食べやすい食器・テーブルの選定を行った。食べにくい食材に関しては、トロミを付ける事で、食事をしやすさを追求した。全体的に改善にむかっている。	
3. 住環境について ①毎日の整理整頓、居室清掃を行います。 ⇒衣類等は必ず衣類タンスに収納します。 ②視覚障がい者に配慮し、危険な箇所がないか随時確認し対応します。 ⇒同線の確保、コーナークッション等の設置。 ③花ホールに座敷を設置し、フラットな場所でゆったりとした時間を過ごせるよう配慮します。	実施・ 一部実施 ・未実施	良好・ 変化なし ・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	活動時に、各居室の整理・清掃を行った。衣類の整理に関しては、ご自分で出来ない方に関しては、職員が変わって整理を行った。利用者自身が出来る方については、職員と一緒にいった。視覚障がい者に対する配慮については、導線の確保を行い、居室の場所が大きく変わった方に関しては、ランドマーク等を設置し、ルートの確認も職員と一緒に行う事で、ホールの場所・居室の場所を認識していただいた。花ホールの座敷設置に関しては、施工者との日程がつかずに、来年度に変更となった。	
4. 口腔ケアについて ①食堂の洗面所にて、口腔ケアを実施します。 ⇒移動距離を短くすることで、その場でゆっくり過ごして待つことができ、利用者本人の負担・事故リスクの軽減に繋がります。また、充実した口腔ケアが実施出来る想定です。 ②毎食後の口腔ケアの時間を大切にします。 ③月に1回以上は、口腔ケア後にレッドチェックを行い、磨けていない場所の確認と認識を徹底します。	実施・ 一部実施 ・未実施	良好・ 変化なし ・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	今年度は、れんげ洗面所での口腔ケアではなく、食堂の洗面所にて口腔ケアを実施した。食堂で口腔ケアをすることで、食事ペースがゆっくりの利用者の見守りもでき口腔ケアをゆっくりとした時間で実施できた。どうしても食堂で過ごすことが難しい方に関しては、自室やホールで、過ごしていただいた。月に1回のレッドチェックに関しては、楽しみ支援の一環として、食後のコーヒータ임을実施したため、日課の中に取り入れることが出来なかった。	
5. 健康面について ①毎朝検温を行い、体調不良の早期発見に努めます。 ②日中を通して観察を行い、必要に応じてバイタルチェックを行います。また、体調不良や怪我等を発見した場合には、看護師に報告、他職員に情報共有を行います。	実施 ・一部実施・未実施	良好 ・変化なし・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	毎朝の健康チェック時に、表情の確認・熱感等のチェックを行いました。大きな体調不調者もなく1年を通して過ごされた。エリア分けになり、少人数での健康チェックを実施することで、細かな箇所への配慮もできた。	

●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

ある程度の目標は達成できたが、環境の整備や口腔ケアチェックに関して、実施できなかったことも踏まえ、今後の日課の調整が必要と感じた。また、食堂の座る位置についても状況把握を行いながら、席順を変更していく必要がある。日課を提供する場所として、食堂の活用も今後の課題でもある。レイアウトから考え、効率の良い場所の利用方法を検討が必要である。

④こすもすの街

方針（目的）	『衣・食・住』を基本に考え、生活環境を整える。スキンケアにも力を入れ、感染症ゼロと共に、皮膚トラブルもゼロを目指す。また、生活する中で出来ることを自分でやるを掲げ、意欲とQOL向上を目指す。		
支援内容	支援の実施	支援の実施による影響	評価
1、衣類について ①季節に応じた衣類を準備し、身なりに気を配ります。 ②衣替えの時期には持ち物を見直し、適宜購入・処分を検討します。 ⇒日課中に、入浴かごの入れ替えや衣替えの時間を確保します。	実施 一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	一年間を通して、衣類への配慮を行った。利用者の中には、季節にそぐわない衣類を好みで選ばれて着衣されたり、破衣行為をされる利用者がいたが、適宜更衣を促し替えていただいた。また、破衣行為がある方に関しては、衣替えの時期とは別に、随時購入を行った。衣類の処分に関しては、ご家族にもご協力を頂き、自宅へ持って帰っていただいた。入浴かごの整理に関しては、毎日の入浴後に整理を行い、衣類が溜まる事がなくなった。しかし、破衣行為がある方に関しては、衣類の準備が間に合わず、当日に買い出しに行く事が多々あり、計画的に買い物に出かけることが難しい日もあった。	
2、食堂について ①食堂にて食事を行います。 ②管理栄養士と連携を取り、一人ひとりの状態に合わせ食事形態等を随時見直し、美味しく楽しい時間となるようサポートします。	実施 一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	朝食と夕食は食堂で食事を提供し、昼食は2階のホールにて食事を提供した。ホールに分かれて食事を摂る事で、ゆっくりとした食事を摂ることができ、食後のコーヒータイムを実施する事もできた。管理栄養士とも常に連携を図り、食事面のサポートを行った。各利用者の担当職員と話し合いを持ち、食事場面での特徴を理解し、食事形態に関しては、誤嚥の可能性がある方に関しては、検討を踏まえトロミ剤の使用した。その対応で誤嚥に繋がることもなく、安全な食事が提供できた。	
3、住環境について ①毎日の整理整頓、居室清掃を行います。 ⇒衣類等は必ず衣類タンスに収納します。 ②視覚障がい者に配慮し、危険な箇所がないか随時確認し対応します。 ⇒導線の確保、コーナークッション等の設置。	実施・ 一部実施 ・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	活動の一部として、自室の整理を職員と一緒にを行った。種類に分けて、タンスに収納するように行ったが、特定の利用者が他利用者の衣類タンスを物色し、衣類の混雑が見られ、その都度、整理を行った。視覚障がい者に対して、危険箇所を確認し、配慮した。2階で過ごされることで階段を使用し、本人の事故に繋がることが予想された為、階段付近には、職員が常に見守りを行った。当初の予定では、転落防止の柵を設置予定が、寸法がなく設置までには至らなかった。今後、状況により設置を検討していく必要があると感じた。導線確保として、基本的には右側歩行を行ったが、場面と状況に合わせて、左側手すり歩行を行った。コーナークッションを設置するまでは至らなかった。今後、必要性について検討していく予定。	
4、口腔ケアについて ①毎食後の口腔ケアの時間を大切にします。 ②月に1回以上は、口腔ケア後にレッドチェックを行い、磨けていない場所の確認と認識を徹底します。	実施・ 一部実施 ・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	毎食後の口腔ケアを実施。エリア分けをすることで、少人数での口腔ケアを提供できた。口腔内のトラブルもなかった。月に1回以上のレッドチェック実施の予定が、食後のお楽しみ提供で、コーヒータイムを試験的に実施を行った為、レッドチェックを継続的に実施する事ができなかった。	
5、健康面について ①毎朝検温を行い、体調不良の早期発見に努めます。 ②日中を通して観察を行い、必要に応じてバイタルチェックを行います。また、体調不良や怪我等を発見した場合には、看護師に報告、他職員に情報共有を行います。	実施 一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・ B ・C
	評価	毎朝の健康チェック時に、表情・熱感等を観察し、体調不良ではないか確認を行った。大きな風邪症状・怪我等もなく1年を通して、健康に過ごされた。	

●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

今年度は、エリア分けをすることで時間をゆっくり過ごすことができました。全体的なエリア分けをすることが出来なかった為、計画していたこと全てを実施することはできなかったが、今後全体的なエリア分けができることによって、より良い支援が可能になると感じた。少人数にすることで、機動力が向上し多種多様な活動内容を提供できた。来年度の課題としては、職員が少ない時間に何を提供するのかをチーム内で話し合う必要があると感じた。

⑤すみれの街・ばらの街

支援方針	季節に応じた衣類や食事を提供し、清潔な住環境を整え、健康的な生活を送っていただきます。また、一人ひとりの持つ能力の維持向上の為、運動や制作などのプログラムを提供し、意欲的で楽しい生活が送れるように支援します。生活面においても、できることは自分でやっていただくようサポートを行います。		
支援項目	支援の実施	支援の実施による影響	評価 (ABC)
1. 住環境について ①毎日の整理整頓・居室清掃を行います。 ②視覚障がい者に配慮し、危険な箇所が無いが随時確認し対応します。	実施・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部実施・未実施	<input checked="" type="checkbox"/> 良好・変化なし・悪化・不明	B
評価	①全体では特に、ばら居室の棚の上等に物が出っぱなしになっていないか、随時確認し、整理整頓を心掛けた。また、各利用者の居室については、担当か否かを問わず汚れが目立つ時は都度清掃を行った。毎日それぞれの居室を清掃する事は出来なかったが、毎月一度は担当利用者の居室を見直し、整頓・整理を行った。 ②視覚障害について詳しい職員を中心に、危険個所の確認を行った。エリア分けの工事にて各エリアの出入り口に新しく引き戸が設置された時には、開け放しにする戸の位置を、視覚障害のある利用者に確認して使い易い方を決め周知した。12月には視覚障害者に対するケアについて、全職員に直接伝える時間を設けた。		
2. 衣類について ①季節に応じた衣類を準備し、身なりに気を配ります。 ②衣替えの時期には持ち物を見直し、適宜購入・処分を行います。	<input checked="" type="checkbox"/> 実施・一部実施・未実施	<input checked="" type="checkbox"/> 良好・変化なし・悪化・不明	A
評価	①季節の変わり目は、全体周知もあり季節に応じた衣類の準備をする事が出来た。日によって寒暖差が激しく、週間で温度差が激しい時もあったが、職員間で相談し声を掛けあい衣類の調節を行った。 ②各支援員、衣類の新調や古い物の廃棄などこまめに行なった。		
3. 口腔ケアについて ①毎食後の口腔ケアの時間を大切にします。 ②月に2回は日中の時間を利用してケアを行います。支援員の知識と技術の向上に努めます。	<input checked="" type="checkbox"/> 実施・一部実施・未実施	<input checked="" type="checkbox"/> 良好・変化なし・悪化・不明	A
評価	①口腔ケアチェック表を作成し、口腔ケアをしていない利用者さんがいないかの確認を行った。もれなくケアする事が出来た。 ②月に2~3回、口腔ケアの時間を設けケアを行った。同時に道具の確認や交換も行った。口腔ケア技術のある支援員より、都度アドバイスや指導を行った。		
4. 食事について 管理栄養士と連携を取り、一人ひとりの状態に合わせて食形態を随時見直しおいしく楽しい時間となるようサポートします。	<input checked="" type="checkbox"/> 実施・一部実施・未実施	<input checked="" type="checkbox"/> 良好・変化なし・悪化・不明	A
評価	管理栄養士と連携をとり随時見直しを行った。嚥下状態や摂取量が悪くなった際には看護師にも入って頂き、原因や対策等小まめに対応した。1月からは食事を風ホールでとるようにし、それまで席を指定していたところを、条件のある方は好きな席やテーブルに座って頂いた。楽しく会話されている方もいたが、騒がしいのが苦手な方もおり、今後も観察が必要と思われた。		
5. 健康面について ①毎朝検温を行い、体調不良の早期発見に努めます。 ②日中を通して観察を行い、必要に応じてバイタル測定。 ③体調不良等発見したらすぐに周知情報共有を行います。	<input checked="" type="checkbox"/> 実施・一部実施・未実施	<input checked="" type="checkbox"/> 良好・変化なし・悪化・不明	A
評価	毎朝(冬季は昼食後も)検温を実施した。発熱者についてはすぐにリーダーと看護師に報告した。普段と異なる排便状況などもすぐに報告し、場合によっては感染拡大予防のための静養等も行った。感染症の発生はなかった。肺炎にかかった利用者についても、初期段階から情報を共有して看護師の指示にすぐに対応できた。		
6. 日中のプログラムについて 一人ひとりの能力に応じ、チームを分けてプログラムを提供し、意欲的に取り組んでいただけるようサポートします。また、個別プログラムが必要な利用者さんに対しては個別のサポートを行います。	実施・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部実施・未実施	良好・ <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし・悪化・不明	B
評価	リラクゼーションチームとクリエイティブチームに分かれて活動する予定が、実際には「きっちりと分かれて」というより「状況や内容に応じて」分かれて活動を行った。両者とも主にリハビリテーションプログラムの内容や運動が中心になり、予定していた制作・調理・カラオケ・ゲームなどは実施出来なかった。しかし、運動においては天気の良い日は園庭や園外での散歩・散策を行い、なるべく日光に当たって頂くよう努めた。個別のサポートが必要な方については、3名中2名のみ昨年と同様ショコラ班にて活動を行っていただき、個別サポートを受けることが出来た。1名は昨年と異なり主に風ホールでのワークを実施したが、机や椅子の位置が気になり、だんだんと集中出来なくなり、2月時点ではワークの拒否も見られた。活動場所の変更だけが原因なのか、加齢による疲れなのか判断は難しいが、ショコラ班と連携して今後の方針を決定予定。		
●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等			
すみれ・ばら、もしくはリラクゼーション・クリエイティブ、と二つに分かれての支援を予定が、実際には活動場所が同一(風ホール)だったため、明確な区分けが出来ず、当初は利用者さんの混乱を招いてしまった。活動としてはリハビリ内容を中心に行なったが、来年度はゲームやお誕生会などを増やし利用者さんの「楽しみ」に繋げる支援ができればと考える。食事や健康面については、管理栄養士や看護師とも協力して目標を達成する事が出来た。住環境については、来年度本格的なエリア分けになり、居室変更後の動きも変わってくるため、事故がないように視覚障がい者への配慮を充実させていきたい。			

4. 権利擁護研修

毎月、施設内における職員会にて権利擁護研修を実施した。タイムリーに起こった事例検討や理念、倫理綱領に基づいた利用者支援の考え方等の話し合いやグループワークを行い、活発な意見交換が出来た。あらためて深く内容を掘り下げ話し合いを行うことで、日頃から行っている支援の振り返りにも繋がった。

5. 行事報告

行事名	日程	参加者数
イースター・召天者記念会	平成31年4月20日(土)	施設入所利用者
クリスマス会	令和元年12月	施設入所利用者

6. 事故報告

○事項報告（宮崎県報告事案）

月	内容	件数
5	誤飲	1件
6	足骨折(転倒)	
	足骨折(原因不明)	
8	肺炎(入院)	3件
10	離園	1件
11	離園	1件
	足骨折(転倒)	1件
12	足骨折(転倒)	1件
1	暴力行為(利用者間のトラブル)	1件
2	唇裂傷(縫合)	1件

9. 土曜学校

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4	6日 印牧師	13日 金牧師 オンギジャインコンサート	20日 荒平牧師 イースター	27日 山口牧師	
5	4日 金牧師	11日 印牧師	18日 海老原牧師	25日 山口牧師	
6	1日 印牧師	8日 金牧師	15日 荒平牧師	22日 山口牧師	29日 浅野牧師
7	6日 金牧師	13日 印牧師	20日 海老原牧師	27日 山口牧師	
8	3日 金牧師	10日 印牧師	17日 海老原牧師	24日 山口牧師	31日 浅野牧師
9	7日 山口牧師	14日 印牧師	21日 荒平牧師	28日 金牧師	
10	5日 山口牧師	12日 印牧師	19日 荒平牧師	26日 金牧師	
11	2日 金牧師	9日 印牧師	16日 荒平牧師	23日 山口牧師	30日 浅野牧師
12	7日 金牧師	14日 印牧師	21日 海老原牧師	28日 山口牧師	
1		11日 印牧師	18日 海老原牧師	25日 山口牧師	
2	1日 金牧師	8日 印牧師	15日 荒平牧師	22日 山口牧師	29日 浅野牧師
3	7日 廣瀬施設長	14日 廣瀬施設長	21日 廣瀬施設長	28日 廣瀬施設長	

①宮崎市内の6つの教会から牧師に来て頂き、聖書からのメッセージをしていただいた。毎週一緒に讃美し、イエス様の話を分かりやすくメッセージしていただき、共に祈る時間をもつ事が出来た。

②1月4日は年始の為、中止。

③3月は、新型コロナウイルス感染予防の為、廣瀬施設長が担当した。

～来園者牧師～

*金 桓基 牧師 宮崎めぐみ聖書教会 *海老原 直宏 牧師 宮崎北聖書キリスト教会
 *印 慶子 牧師 宮崎柳丸キリスト教会 *荒平 大輔 牧師 川南せせらぎキリスト教会
 *山口 英希 牧師 宮崎清水町教会 *浅野 謙 牧師 霧島キリスト教会

7. ボランティア

No	期 日	行事名	個人・団体名	人 数	内 容
1	4月13日	オンギジャンコンサート	金牧師夫妻他7名	10名	音楽コンサート
2	6月28日	なし	宮崎北聖書キリスト教会	10名	新聞紙袋作り ウエス作り
3	10月6日	なし	さいたまみつこ様 日高恵子様	2名	マジックショー 腹話術

8. 実習生

No	期 間	学校名・施設名	人 数
1	令和元年8月5日～8月9日 令和元年9月2日～9月4日	宮崎福祉医療カレッジ 社会福祉学科	2名
2	令和元年8月30日～9月11日	宮崎学園短期大学 保育学科	2名

10. 医務

○看護師

報告者 東屋理香

①看護部門

医務の年間計画に基づき事業を行った。年3回の脳波測定に関して、前年度の取り組みに対して見直しを行った。これまで、抗てんかん薬服用中の利用者22名をピックアップし、脳波測定を実施したが、検査が困難という理由もあり、てんかん発作もなく、状態が安定している利用者については主治医と相談をし、5名に検査対象利用者を絞った。今後も個人にとって必要な医療機関の受診か、必要な検査かを、主治医と相談しながら、無駄のない通院計画を展開していきたい。

町外の通院（歯科福祉センター）が多く、看護師が通院に要する時間が長い事で、在園する事が少ない状況下にあった。通院を月に1度から2～3ヶ月に1度の検討、静脈麻酔下での歯科治療に切り替えることで、短時間で効率の良いケアを提供できるようになった。口腔衛生の充実から発熱者が減少した事は良い点だが、今後は、看護師は在園をし生活から健康を支える視点で看護を提供していかなければならないと感じた。看護師8名、理学療法士3名、管理栄養士1名の、スタッフのチームワークのもと、令和2年度も協力して利用者様、職員の健康を支えていけるように努めていきたい。

②歯科関係

日々の口腔ケアの充実、通院において専門下によるケアを組み合わせることで、口腔内の状況改善に繋がった。（口臭や歯肉の発赤・腫脹等のトラブルの軽減）歯科衛生士からのアドバイスが年々専門的になってきており、求められるという事は職員のレベル向上も考えられた。口腔内の状態が改善した事により、風邪をはじめとする発熱者が少なくなってきた事も、口腔衛生の取り組み評価の一つである。

③感染対策

職員会や研修の時間を設け、インフルエンザ・感染性胃腸炎の感染症研修を行った。パワーポイントで説明をしながら実践を行い手技の確認をしたが職員一人ひとりの意識や手技方法の差があった。感染症を予防する事は統一した予防策をきちんと理解しておくこと、個人の意識向上だと考え、今後職員会等を利用して、医務保健課として研修を開催していきたい。

④利用者 通院状況(平成 31 年度)

月	内科		外科		精神科 精神科・ 神経科	整形 外科	皮膚 科	眼 科	耳 鼻 科	歯 科	婦 人 科	通 院 合 計	健 診 (通)	健 診 (内)	健 診 合 計	給 付 費 外	田中外科	井上病院	入 院 時 支 援	歯科福祉
	田 中 外 科	そ の 他	田 中 外 科	そ の 他													内 科 診 察	精 神 科 診 察		口 腔 ケ ア
4	16	5			3	2	7	3	3	14	0	53		61	61	10	61	15		37
5	10	3			7	7	0	5	1	17	0	50			0	8	2	9		11
6	8	2			5	13	0	3	0	11	1	43			0	18	12	8		11
7	10	7			4	4	0	0	2	14	0	41			0	13	8	16		10
8	35	8			2	2	0	0	0	10	0	57			0	10	5	9		11
9	6	8			0	1	64	0	0	11	1	91			0	9	0	12		6
10	10	7			3	3	0	3	0	14	0	40		58	58	11	58	12		35
11	44	5			4	6	1	6	0	9	1	27	22	22	11	23	9		10	
12	18	9			1	4	3	3	0	16	0	54			0	13	5	11		10
1	10	5			1	3	1	3	3	15	1	42	8		8	10	5	16		10
2	7	4			0	2	0	1	0	13	0	27	13		13	7	6	9		11
3	14	3			1	1	0	3	2	3	0	27	8		8	5	0	0		5
計	188	66	0	0	31	48	76	30	11	147	4	601	51	119	170	125	185	126	0	167

⑤利用者 入院状況 (平成 31 年度)

性別	病名	医療機関	入院期間
女性	急性腎盂腎炎	県立宮崎病院	平成31年6月20日～7月18日
女性	パーソナリティ障害	井上病院	平成31年7月16日～10月11日
男性	肺炎	田中外科	平成31年8月5日～8月29日
女性	肺炎	県立宮崎病院	平成31年8月8日～8月23日
女性	肺炎	田中外科	平成31年8月12日～9月12日
男性	外傷性クモ膜下出血	宮医大(救急)	平成31年9月22日～10月8日
〃	〃	井上病院(転院)	平成31年10月8日～11月8日
男性	てんかん	県立宮崎病院	平成31年9月26日～9月27日
女性	肺炎	田中外科	令和2年1月3日～1月8日
〃	〃	古賀総合病院(転院)	令和2年1月8日～1月22日
男性	肺炎	潤和会記念病院	令和2年3月22日～3月30日

○理学療法士

報告者 田代憲司

①毎年最低一人のリハビリテーション加算(以下リハビリ加算)者 追加

今年もリハビリ加算取得を一人追加。申請時期が2月だったので、H31年度はほとんど報酬がなかったが、R2年度は約¥50,000程の追加報酬となる見込み。

②リハビリ機器の導入

H31年度では、様々な事情でリハビリ機器の購入を断念した。R2年度では、希望リハビリ機器全部の購入は難しいが、優先順位をつけ、優先度の高いものから1台ずつ購入を検討していく予定。

③リハビリ備品管理

風ホール倉庫にて、「車椅子や歩行器」関係を管理し、細々したリハビリ機器や道具に関しては、医務室横の静養室にて管理した。車椅子や歩行器は半年に1回のペースで掃除し、修理などはその場で完結させた。

④個別リハビリ継続

リハビリ加算をとられている利用者様に関しては、月2回以上の評価を行い、一人一人に合わせたリハビリや運動の「目的」をもって「プログラム」を作成し、実施した。本来であればリハビリや運動の回数をもう少し増加したいが、現状は難しいので維持とした。またリハビリ加算をとられていない利用者様でも、目的こそないが、運動習慣は身につけていただいた。

⑤運動機能評価開始

H31年度より、リハビリ加算をとられている利用者様のみ、運動機能(歩行能力、バランス、敏捷性、筋力等)の評価を開始した。簡易的な評価用紙を作成し、ケアカンファに合わせて評価を行い、データを蓄積させた。評価結果の分析・考察がR2年度で少しでも出来ればと考えた。

①給食状況

今年度は、「おいしく、楽しく、安全に」をモットーに掲げた。6月から食事基準表を改定し、糖質エネルギー比を今までの55%から、50%に変更し、たんぱく質エネルギー比を18%から20%に変更した。これにより、食事は主食量が従来よりもへり、おかずが増量して食べやすくなった。又、同時に今までの刻み食を廃止し、形のある食事、誤嚥のリスクを減らす食事を目指して嚥下調整食を始めた。ご利用者様の高齢化に伴い、安全な食事のニーズはより高まった。季節に合わせたお食事を提供し、楽しい食事、彩り豊かな食事の提供を心掛けました。又、危機管理体制の整備として、食中毒のリスクを回避するよう、衛生面に気を付けた。

②給食実施総食数内訳

単位：(食)

月別	利用者			ショートステイ	生活介護	月別合計
	常食	刻み食(6月から嚥下調整食)	療養食			
4月	2,299	1,736	1,063	140	75	5,313
5月	2,342	1,794	1,104	184	92	5,516
6月	2,248	1,741	1,067	192	95	5,343
7月	2,277	1,785	1,098	143	98	5,401
8月	2,258	1,636	1,084	96	95	5,169
9月	2,320	1,685	969	100	94	5,168
10月	2,288	1,780	1,105	114	100	5,387
11月	2,270	1,741	1,065	89	114	5,279
12月	2,348	1,771	1,067	79	114	5,379
1月	2,228	1,716	1,066	78	122	5,210
2月	2,243	1,574	1,113	103	95	5,128
3月	2,492	1,708	1,238	90	112	5,640
区分別合計	27,613	20,667	13,039	1,408	1,206	63,933

③給食栄養状況

月別	区分	熱量 (Kcal)	蛋白質 (g)	脂質エネルギー比 (%)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミン				食物繊維 (g)	食塩 (g)
							A(μg)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)		
4月		1,757	60.0	19.0	551	8.8	527	0.92	0.69	135	16.8	7.7
5月		1,788	64.2	19.8	547	8.5	607	0.99	0.77	123	16.6	7.5
6月		1,795	66.8	19.2	552	10.3	1,226	1.07	0.82	103	17.3	8.2
7月		1,792	67.2	19.6	586	9.2	906	0.98	0.78	108	16.1	7.7
8月		1,816	67.3	20.3	575	9.3	1,258	1.12	0.81	118	16.3	8.0
9月		1,807	66.8	19.8	552	10.2	1,247	1.02	0.82	103	16.5	8.0
10月		1,811	67.6	19.8	560	9.0	907	1.04	0.79	104	16.3	7.4
11月		1,819	67.1	20.9	561	9.2	1,283	1.04	0.80	97	16.1	8.0
12月		1,822	67.5	20.5	553	10.1	1,237	1.01	0.86	105	16.8	8.1
1月		1,829	67.5	19.7	576	10.5	1,289	1.05	0.81	102	16.7	7.8
2月		1,844	67.4	20.7	596	8.8	1,162	1.06	0.79	100	16.8	8.1
3月		1,814	66.3	20.5	568	10.1	1,240	0.98	0.84	157	16.6	8.0
月平均		1,808	66	20	565	9.5	1,074	1.0	0.8	113	16.6	7.9
栄養所要量		1,800	67	20~30	675	10.5	775	1.1	1.3	100	19.0	8g未満

7. エデンの園ショートステイ

サービス管理責任者 蛭原 翼

○短期入所

・利用実績(男子)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計	68	86	87	66	46	52	60	38	35	35	46	0	619

・利用実績(女性)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計	1	0	0	7	7	0	0	2	0	0	0	0	17

今年度は、新規利用の方も含め男女13名の方が、利用されました。内、新規の方は3名となっています。表記の通り、毎月ショートステイ利用が入っていました。急な依頼や長期間の利用に対応することができ、家族などの介護者のニーズにも対応することができたと考えます。

8. エデンの園ふれあい

サービス管理責任者 日高 武敏

1. サービス実績

○生活介護（20名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21	23
延べ人数	431	448	442	454	431	429	436	414	439	408	407	443
1日平均	19.56	19.47	20.09	19.74	18.74	19.50	18.96	18.81	19.09	17.74	19.38	19.26
利用率	97.6	97.3	100.4	98.6	93.6	93.6	94.7	94.0	95.4	88.6	96.9	96.3

2. 重点目標

項目	評価点	評価
①利用者の障がい特性をしっかりと理解し活動に繋がります。	3・ 2 ・1	それぞれの活動に目的をしっかりと持たせ、職員間で共有した。また、各活動の目的や手法などをマニュアル化し、いつでも確認出来た。しかし、個別活動の目的が明確ではなかった為、それぞれの特性（個性）に合ったプログラムの整備が必要であった。 支援に当たる上で必要と思われる知識を得るために、勉強会を6月、9月、11月に実施した。 (内容) 「感染症対策」「障がい支援区分認定調査について」「ノロウイルスについて」「熱中症対策」「Timed Up&Go testについて」「合理的配慮について」「クロックポジションについて」「災害時の対応について」
②運動とリハビリテーションを通して体力維持に努めます。	3 ・2・1	活動種目の中にウォーキングを組み込み、現在のリハビリ加算対象者 21名（昨年度より7名増）来所時に毎回、PTの指導の下、個別プログラムを実施した。また、3か月に一度、リハビリ実施計画書の見直しを行い、その際に動機づけを行い運動の大切さを利用者に伝えた。1月より運動機能評価表を作成、実施開始した。
③地域交流に積極的に参加すると共に、社会生活支援を推進します。	3・ 2 ・1	8月16日に「森永デイサービスセンター」、10月21日、12月25日に、「あっぱれデイサービス」にてミニコンサートを実施した。 夏祭りの際、近隣住民向けに案内の作成・配布を行った。国富町主催の「ふれあいレクリエーション」に参加した。3月に「第2回くにとみ春風コンサート」を企画したが、コロナウイルスの影響で開催はできなかった。 地域福祉コーディネーターと連携し、地域のニーズに沿った取り組みを計画する予定。

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

3. 活動報告

今年度から、活動種目の増加を行うと共に、活動の目的を明確化することが出来た。しかしながら、「軽作業」として行ってきた個別活動の目的が明確ではなかった為、それぞれの特性（個性）に合ったプログラムの整備が必要であった。

運動については、利用者、職員の意識も高くなってきたことは良かった。今後はしっかりと個別に運動機能についてのデータ化が必要である。地域交流については、コンサートで他事業所を訪問することが出来たが、それ以外にも、地域コーディネーターと連携を図りながら地域が何を求めているかに着目しながら、実施する必要があると感じた。

4. 権利擁護研修

エデンの園ふれあい職員会の中で、毎月権利擁護研修の担当職員を決め研修を実施した。2019年度は事業所間交流も含めた交換研修として8月と2月にエデンホーム森永福島チーフ、第1福祉課林課長にも研修を行ってもらった。内容は外部研修の伝達や利用者支援の方法等をワーク（グループ含む）や意見を交換しながら行い、新しい気付きや実際に起こっている支援の困りごと等を共有し、その後の支援につなげることが出来た。

5. 行事報告

行事名	日程	参加者数
イースター・召天者記念会	4月20日	13名
外出（フローランテ宮崎）	5月29日	13名
外出（フローランテ宮崎）	6月24日	13名
サマーフェスタ	7月26日	35名
外出（ボーリング）	8月29日	13名
運動会	9月7日	57名
外出（プラネタリウム）	10月25日	13名
県央地区交流レクリエーション	10月31日	15名
ふれあいレクリエーション	11月16日	14名
外出（外食・大淀川学習館）	11月28日	13名
クリスマス会	12月24日	15名
第2回くにとみ春風コンサート（中止）	3月14日（予定）	

6. ボランティア

No	期日	行事名	個人・団体名	人数	内容
1	令和元年9月7日	ふれあい運動会	本庄高校	7	利用者支援
2			宮崎医療福祉カレッジ	2	利用者支援
3			妻高校	2	利用者支援
4			A コープ国富店	1	利用者支援

7. 実習生

No	期間	学校名・施設名	人数
1	6月21日	宮崎学園短期大学	1
2	8月13日～8月16日	宮崎医療福祉カレッジ	2
3	8月16日～8月29日	宮崎学園短期大学	2
4	8月30日～9月12日	宮崎学園短期大学	2
5	9月13日～9月30日	宮崎学園短期大学	2

9. エデンホーム三名

サービス管理責任者 町田紀恵

1. サービス実績

○共同生活援助

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
延べ人数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
1日平均	1.2	11.8	11.9	11.9	11.7	11.9	11.9	11.9	11. 7	11.5	1.2	1.2

2. 重点目標

項目	評価点	評価
①感染症の予防・健康の維持・口腔ケア ・手洗い、手指消毒の徹底、ホーム内の定期的消毒により感染症の防止に努めます。 ・健康を維持できるよう散歩や体操などの運動を行います ・職員が歯磨きの確認を行い、口腔ケアを充実します。	3・ 2 ・ 1	・手洗い、消毒の言葉かけを行い実施した。手洗い、ガウンテクニックなどの勉強会を実施。大きく体調を崩す利用者もおらず勉強会の効果がでている。インフルエンザ感染者なし。 ・余暇支援時に散歩や運動を実施。気分転換に繋がった。 ・口腔衛生講義に参加。毎食後の口腔ケア実施。歯科受診時に口腔内がよくなってきていると評価を受けた利用者もいた。
②余暇の充実 ・利用者のニーズを汲み取り、楽しみにつながるよう余暇を提供します。	3・ 2 ・ 1	余暇支援計画を立て実施した。計画を立てることで見通しが立ち、余暇時間を楽しむことができた。散歩、ドライブ、おやつ作り、調理、カラオケなどを実施した。
③地域行事への参加 ・地域の防災訓練や行事に参加します。	3・ 2 ・ 1	・地域の清掃活動に参加。また、ホーム周辺を散歩する際ゴミ拾いをする事もあった。 4月14日 三名地区多目的広場作業 3名参加 8月4日 クリーン国富 2名参加 防災訓練は講習だった為職員のみ参加した。
④人材育成 ・職員の専門性、脂質の向上に努めます。 ・生活支援会（年2回）、ホームミーティング（月1回）開催します	3・ 2 ・ 1	・権利擁護研修の実施。職場内研修参加。出張後復命報告会を実施。出張後は報告会を行い、ホーム職員に伝達を行った。手引き歩行についての研修会を行った。 ・毎月ホームミーティングを実施し、マニュアルの確認や課題について協議した。

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

3. 活動報告

夕食はワタミの宅食サービスを利用していたが、料金値上げがあり自前で食事を提供できるよう検討し、買物の課題については食材配達業者を利用することで買物に掛ける時間を減らすことができる見通しが立てたため、12月より自前食事を提供を開始。利用者のリクエストに答えられるので利用者は喜ばれていた。外出介護は利用者に出足の希望をとり行き先を決定し、地域生活支援事業所（向陽の里）を利用しヘルパーと共に外出を楽しんでいた。（イオンモール宮崎など）2月はコロナウイルス感染症の為、行き先を変更し時間短縮で実施。3月はコロナウイルス感染症予防の為外出介護が中止となった。

4. 権利擁護研修

ホーム職員会、生活支援員会議に権利擁護研修を実施した。月毎に担当を決め研修を行う。昨年度3月27日に虐待が発生した為、虐待についての研修を多く行った。普段会議に参加しない夜勤専門職員や、パート職員には生活支援員会議時に研修を行い周知した。障害者虐待防止法の詳細を知ることができたとい声を聴くことができた。グループホームは1人で支援することが多く、虐待が起こりやすい環境である為、支援に困った時に相談すること。1人で抱え込まず職員全員で支援すること。職員同士のコミュニケーションを良くしていくことなどを研修で学んだ。

5. 行事報告

行事名	日程	参加者数
宮崎県障がい者スポーツ大会	令和元年5月12日	4名
望年会	令和元年12月21日	12名
焼肉会	令和2年3月7日	12名

6. ボランティア

実績なし

7. 実習生

実績なし

10. 第2福祉課

第2福祉課長 那須 健太郎

1. サービス実績の総評

2019年度は法人として新たな事業展開は実施せず、将来に向けた法人内部の体力強化を行う観点から、法人内研修を中心とした新たな枠組みの中で取り組みを行った。各種研修会の活動では、各事業所に主体性を持たせた研修を実施し、事業内容や特色などを共又は理解を深めることができおり、事業所としての新たな気づきや発見があった。

その他、外部講師による専門性の高い勉強会や各種委員会への参加活動が個人のスキルアップに繋がり、行動指針や個人キャリア目標に即した効果が現れた年度であった。

麦わらぼうしにおいては、事業所評価に基づき、より必要とされる児童の利用を拡大したいという思いから、定員10名/日から15名/日に向けての内部プロジェクトチームを立ち上げ、各種シュミレーションやプレゼンを行い次年度に向けた準備期間としての取り組みを行ってきた。

また、エデンホーム森永においては、当初から計画のあったショートステイ事業を令和元年5月1日より「グループホーム ほのか」において事業開始し、利用者の在宅支援の維持継続、利用者自身の社会性の拡大又はレスパイトケアの一助に繋がったと思われる。

地域貢献事業としての生活困窮者に対する入浴支援事業に関しては、積極的なPR活動は行わなかったものの相談支援事業所と麦わらぼうしが連携を図り、過不足なく当該利用者に対し、低額での入浴サービスの提供を行う事ができた。また、地域福祉コーディネーターの活動実績としては、国富町社会福祉協議会主催の「こども食堂(るんるん食堂)」に実行委員として参画し、地域の皆様との交流を深めることができている。また、地元竹田地区独自の「こども食堂(にこにこ食堂)」に対しては、法人として調理の際に必要な次亜塩素水提供などの間接的支援を行った。更に、年度途中から引きこもりに対する支援事業の地域貢献事業としてCSW(コミュニティソーシャルワーカー)にて「クリスタルカフェ」に定期的な参画を行っている。

相談支援専門員は日々使命感を携えながら、虐待や緊急性の高い事案に対し、積極的に行動又は関係機関と連携を図ってきた。更に、2019年度は24時間対応型として新たな進化を遂げ、深夜早朝に関わらず利用者のことばに耳を傾けて合理的な配慮に努めてきた。

第2福祉課の重点目標の大きな柱である「地域共生社会の実現に向けた取り組み」としては、相談支援専門員(主任)が国富町介護支援専門員連絡協議会定例会に講師として参加し「障がい分野と介護保険分野の業務内容の違い」に関する出前講座を行い、介護支援専門員との交流を深めることができ、研修アンケート集計からも地域共生社会実現に向けた第一歩に繋がったと言える。

就労継続支援B型事業所つむぎにおいては、利用者支援の質の向上はもとよりB型事業所の特性を踏まえ、利用者月額工賃15,000円を掲げ、施設外就労と委託作業のキャパシティーを増やししながら目標を達成することができている。

最大の壁であった65歳達成時の介護保険への移行に関しては、机上理と現実のギャップを知らされる機会となった。サービスを提供する側の学業ベースの違いや公的根拠の違い、更には相手事業所の経営方針の違いなどにより、介護保険移行先のサービス事業所の選択肢が予想以上に選択肢が少ない現状があった。保険者や地域格差はあるかと思うが、今後は利用者家族自身が複数の選択肢から選べる仕組みが必要と感じた。

2. 重点目標

項目	評価点	評価
① 事業の円滑な運営	3・㉔・1	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 ⇒つむぎでは年間事業計画に基づき、奇数月(7月以降)に広報誌を作成し当該ご家族や家族会で配布し情報の発信に努めた。 ⇒麦わらぼうしでは既に定期的に広報誌を発行しており、令和元年度も毎回広報誌を発行し情報発信に努めた。 ⇒麦わらぼうしでは年度途中から、第1福祉課と連動し、家族会後の懇談会の在り方を見直し、家族の意見を反映した意見交換や法人内事業所見学会などを企画した。その都度広報誌を作成し懇談会時に説明を行いながら情報発信に努めた。 ⇒事業計画に基づき、5月からほのかにおいて、ショートステイ事業を開始した。昨年末には宮崎市社会福祉協議会などにもPR活動を行い情報発信に努めた。 ・事業所のセールスポイントを明確にした事業運営 ⇒法人内研修(自事業所プレゼン大会・おもてなし企画・グループワーク)を通して、自事業所のセールスポイントや強みなど振り返る機会となった。
② 充足感のある生活の実現	3・2・㉕	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の権利を擁護すると共に、それぞれの意思を尊重します。 ⇒3の評価を行うとそれ以上の向上がない為に厳しい評価としたが、各事業所に於いて職員会の議題で権利擁護を取り上げ独自の研修会や事例検討会を行ってきた。 ・利用者の強みを活かした生活ができるよう支援します。 ・アンケートを実施しサービスの向上を図ります。 ⇒法人全体としてのアンケート調査や麦わらぼうしでの意識調査などを行った。全体のアンケート調査の結果公表やフィードバックの在り方の精度を更に高めていきたい。
③ 地域連携の強化	3・㉔・1	<ul style="list-style-type: none"> ・社会との結びつきを強くし必要とされる事業所を目指します。 ⇒つむぎに於ける就労支援では、施設外就労での農福連携や老人ホームでの清掃作業等を通して地域との結びつきや障がい者の理解や権利擁護の啓発に努めてきた。又、地域の清掃活動などにも参加し交流を深めてきた。 ・地域のニーズをとらえ社会貢献活動を進めていきます ⇒専ら相談支援事業所、相談支援専門員からの連携で、家族の入院など緊急性の高い方をほのかショートステイ利用に繋げ利用して頂いたり、行政からの依頼を受けた緊急性の高い児童を、麦わら利用に繋げたり、過去三か月入浴していない方を入浴支援サービスに繋げる事でき、地域には微力ながら貢献できたと思える。 ⇒地域福祉コーディネーターやCSWとして各専門職が国富町や社会福祉協議会と連携を図りながら活動を行うことができている。

<p>④ 新しい事業への取り組み</p>	<p>3・㉔・1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活拠点の構想を念頭において事業を行います ⇒地域に根差した総合的な支援を「何かお困りごとがあったらエデンの園」のテーマを元に相談支援事業所が相談を受け他の三種(放課後等デイサービス・障がい者グループホーム・就労継続支援B型)事業所が依頼を受け支援サービスを提供する流れが出来てきた。次年度以降に新しい事業展開を進める必要がある。 ・地域のニーズに合った事業の展開を検討します ⇒令和元年度にエデンホーム森永に於ける65歳介護保険移行に直面した。コンプライアンスのもとに早くから行政や介護支援専門と協議を重ね遅延ない移行を目指したが当初予定より時間を要した。住み慣れた施設を離れて介護保険適用事業所へ移行する事への制度間や支援や介護内容の違いから来る課題を残す事になり全てを解決するには至らなかった。今後の「地域共生社会」の課題としたい。 ⇒放課後等デイサービス麦わらぼうしでは、「真に必要な児童に幅広く利用して頂きたい。」と言う観点から令和2年度からの定員増を見据えたプロジェクトチームを立ち上げ事業内容の精査を行ってきた。ソフト面からハード面に関して協議を重ねてきた。 ⇒ほのかショートステイでは重度の利用者も積極的に受け入れを行ってきており利用者家族の在宅支援に努めた。
<p>⑤ 人材(財)育成</p>	<p>3・2・㉑</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間のコミュニケーションを図りつつ資質を高めていきます ⇒課としてソフト面～特に職員間のコミュニケーションや人間関係の充実が重要課題として捉え、日々出てくる事業所の課題に取り組みながら解決を図ってきたが、職員間のコミュニケーション不足が要因と思える支援力の低下等が若干確認できた為、次年度課題として重点的に取り組みたい。2019年度に不特定多数の退職者が出た為に、次年度は更に魅力ある職場作りに努めたい。 ⇒麦わら帽子では、夏休み期間中に学生アルバイトや自主ボランティアを受入れ、児童への支援やデイキャンプ、海水浴などのイベント参加を通して、魅力ある福祉職場の発信や人材(財)育成に努めた。

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

【添付資料・実績データ・グラフ等】

①第2福祉課会開催の状況

期日	時間	協議した内容
4/12(金)	10:30~12:00	各事業所現状報告・第2福祉課勤務表フォームの統一化・PC上での勤怠管理導入について・センター複合機について
5/10(金)	10:30~12:00	各事業所現状報告・麦わらぼうしヒヤリハット検証・ほのか玄関先の手すり設置の必要性について・新任研修についての気づき・相談支援専門員の制服
6/10(金)	10:30~13:00	各事業所現状報告・相談支援事業所としてのエリア決め・つむぎ支援の在り方・エデンホーム森永の金銭受け渡し・ほのか自前給食提供について
7/12(金)	10:30~11:30	各事業所現状報告・相談支援事業所残業について・職員補充について・職員間のコミュニケーションについて・麦わら電話回線を2回戦希望
8/9(金)	10:30~12:00	各事業所現状報告・課会の開始時刻変更について・麦わら利用児について・エデンホーム森永利用者帰省頻度について・指揮命令の再確認について
9/11(金)	10:00~12:00	各事業所現状報告・利用者家族からの苦情について・麦わらぼうしの令和2年度の事業内容について・ショートステイ新たな顧客獲得について・他
10/11(金)	10:00~12:00	各事業所現状報告・つむぎ利用者報告事項・エデンホーム森永焼肉会報告・相談モニタリングの件・在庫管理表について・公用車貸し借りルールについて
11/7(金)	10:00~12:00	各事業所現状報告・65歳介護保険移行について・つむぎのパート会について・職員面談について・エデンホーム森永県指導監査について・コスト削減の件
12/11(金)	10:00~12:00	各事業所現状報告・ショートステイ登録者数について・相談業務整理について・ほのか農園について・クリスマス・るんるん食堂・竹田にこ食堂の件
1/11(金)	10:00~12:00	各事業所現状報告・エデンホーム森永利用者の件・生活史進捗について・事業所稼働率・感染症対策について・ビジネスホン導入について
2/7(金)	10:00~12:00	各事業所現状報告・麦わらぼうし定員15名に向けて・県監査を終えて・利用者アンケート調査について・麦わらぼうし家族会懇談会(コロナの為中止)
3/13(金)	10:00~12:00	各事業所現状報告・新型コロナウイルスの件・65歳介護保険移行進捗について・職員駐車場整備について・重要事項説明書一部変更・防火管理責任者の件

②グループホーム懇談会開催状況

※令和1年4月から7月は家族会終了後に開催し口頭で諸々を伝えていただけであったが8月からはグループホーム懇談会として月間計画を立てて行う事とした。よって下記実績は令和1年8月からとなる。

期日	時間	内容
8/17(土)	11:00~12:00	今後の家族会の在り方についての全体説明と意見交換
9/21(土)	11:00~12:00	メンタルヘルスケア合同研修
10/19(土)	11:00~12:00	青い鳥・ほのか見学会～外気温低下により家族の意見を反映し中止
11/16(土)	11:00~12:00	個別対応型及び生活史の聞き取りを行う
12/28(土)	11:00~12:00	開催期日延期に伴い年の瀬である事もありふれあい見学
1/18(土)	11:00~12:00	個別対応型及び生活史の聞き取りを行う
2/15(土)	11:00~12:00	個別対応型及び生活史の聞き取りを行う
3/21(土)	11:00~12:00	新型コロナウイルスの関係で中止

1 1. エデンホーム森永

サービス管理責任者 福島 光夫

1. サービス実績

○共同生活援助

・青い鳥

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用予定数	210	217	210	217	217	210	217	210	217	217	203	217	2,562
利用実績数	208	212	206	215	213	206	214	207	211	212	200	204	2,508
稼働率	99.0	97.7	98.1	99.1	98.2	98.1	98.6	98.6	97.2	97.7	98.5	94.0	97.9

・ほのか

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用予定数	210	217	210	217	217	210	217	210	217	217	203	217	2,562
利用実績数	201	205	200	208	196	206	217	210	207	217	203	217	2,487
稼働率	95.7	94.5	95.2	95.9	90.3	98.1	100	100	95.4	100	100	100	97.1

2. 重点目標

項目	評価点	評価
(健康の維持・感染症の予防) 利用者の高齢化を見越し、健康を維持できるように散歩などを取り入れ、運動量を確保することに努めます。	3・2・1	余暇時間を利用し、ホーム内のウォーキング、ウォーキングマシンを使った運動を行った。また、休日などは、近隣の公園などへの散歩を取り入れ、身体を動かすよう対応を行った。
(健康の維持・感染症の予防) 手指消毒を徹底し、ホーム内の定期的消毒により感染症の防止に努めます。	3・2・1	帰ホーム時や、ホーム内に入る時は、手指消毒を促し、徹底を行った。また、利用者が事業所利用時、夜間就寝時は、ホーム内を次亜塩素酸水にて消毒を行った。
(余暇の充実) 利用者のニーズを探り、楽しみに繋がるよう、余暇活動を工夫します。	3・2・1	利用者の要望等を聴き、休日のドライブ先に取り入れ、買い物等にも反映できる工夫を行った。
(地域コミュニティ) 地域行事等に進んで参加を行ないます。	3・2・1	竹田地区行事の情報収集を行い、可能な限り、参加を行った。
(人材<財>の育成) 研修等への参加を推進し、専門性・資質の向上に努めます。	3・2・1	全ての職員への研修参加は出来なかったが、1回/月の施設内研修への参加協力は出来た。
(人材<財>の育成) 利用者支援を全職員で取り組む体制を整え、公平なサービス提供に努めます。	3・2・1	兼務での体制は整えることが出来たが、兼務での勤務は一部の職員に留まった結果となった。
(人材<財>の育成) 生活支援員会(各2回/年)・ホームミーティング(1回/月)の開催、アンケート(1回/年)を行ない、サービスの向上に努めます。	3・2・1	生活支援員・ホームミーティング・アンケート共に、計画通り行った。
(人材<財>の育成) 新しいグループホーム「ほのか」の運営を軌道にのせます。	3・2・1	利用者のアセスメントを定期的に行った。また、利用者支援に繋げる事が出来た。

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

3. 活動報告

利用者の健康状態や要望等を取り入れ、メニューを職員で考え食事提供を行った。ほのかでは、ワタミの食材配達コースを取り、提供していたが、食材料費の値上がり等が発生した為、青い鳥に合わせ、ほのかでも7月よりホームで調理を行い、提供を行った。

利用者に多くの体験をしていただく為に、一人ひとりの希望を取り入れ、外出先等の調整を行った。また、2月からは、コロナ感染対策の為、外部事業所の制限を行っている為、同行援助、外出介護を中止した。

4. 権利擁護研修

グループホーム職員会は、開催日を事前に設定した日時で実施した。利用者状況、権利擁護研修（職員持ち回り）連絡事項、ホーム課題、委員会周知等の話し合いを行った。生活支援員会は青い鳥（6月、10月）、ほのか（7月、11月）に実施し、パート職員も可能な限り、出会していただき、実施した。ホームミーティングは、各ホーム1回/月で実施し、個別支援計画に連動させ、カンファレンスの実施も行った。

5. 行事報告

行事名	日程	参加者数
花見	4月29日（月）	青い鳥7名・職員3名
合同バーベキュー大会	9月16日（日）	利用者・職員・ご家族合計30名
温泉（木城温泉湯らら）	12月21日（土）	青い鳥7名・職員4名

※余暇支援では、各ホームとも、1回/月程度はドライブ等を行った。

6. ボランティア

実績なし

7. 実習生

実績なし

12. ほのかショートステイ

サービス管理責任者 福島 光夫

1. サービス実績

○福祉型短期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用予定数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用者数	0	1	1	1	1	1	2	3	3	3	2	1	—
利用実績日数	0	17	30	31	1	7	11	16	11	11	6	9	150
稼働率	0.0	54.8	100.0	100.0	3.2	23.3	35.5	53.3	35.5	35.5	20.7	29.0	41.0
重度加算日数	0	0	0	0	0	2	9	7	2	4	4	8	36
重度加算率	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.67	29.03	23.33	6.45	12.90	13.79	25.81	9.86
送迎加算日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
送迎加算率	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.90	3.23	0.82

13. エデンの園相談支援事業所

相談支援専門員 長友 真佐子

1. サービス実績

○計画相談支援・児童相談支援

【令和元年度 集計】														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
新規契約者(成人)	6	4	1	2	2	0	0	0	0	1	0	1	17	50
新規契約者(児童)	2	1	2	0	5	1	2	4	3	4	3	6	33	
契約終了(成人)	0	0	3	1	0	3	0	2	0	1	2	2	14	15
契約終了(児童)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
契約者(成人)	126	132	136	137	139	141	141	141	141	142	142	143	143	225
契約者(児童)	51	52	54	54	59	60	62	66	69	73	76	82	82	
契約のみ(成人)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	11	11	11	13
契約のみ(児童)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
契約者合計	189	196	202	203	210	213	215	219	222	227	232	239	239	
実績(成人)	19	25	25	33	34	31	28	28	30	29	40	28	350	
実績(児童)	18	15	11	16	9	21	9	10	18	3	12	7	149	
実績合計	37	40	36	49	43	52	37	38	48	32	52	35	499	
平均件数(件/1人)	12.3	13.3	12.0	16.3	14.3	17.3	12.3	12.6	16.0	10.6	17.3	11.7	13.8	
前6か月の平均件数	12.3	12.8	12.5	13.5	13.6	14.3	14.2	14.1	14.8	13.9	14.4	13.4		

※6か月平均件数は、前6か月の件数を相談支援専門員3人で除した数字

2. 重点目標

項目	評価点	評価
① 「地域共生社会」を念頭に～ I：ストレングスモデルに基づくケアマネジメントと本人中心の相談支援。相談支援により問題解決能力(エンパワーメント)を向上させ、本人の権利を擁護しつつ個別相談を重視した本人中心の支援を行います。	3・ 2 ・1	定期的かつ随時行われる伝達研修等を活用し、他の相談支援専門員の意見も聞きながら、一人の相談支援専門員の視点では気づかない利用者のストレングスに着目したり、情報提供時に、話だけでなく、実際に体験や見学を行い、ご本人や家族が選択しやすいように配慮しながら、ご本人(児)の持っている力を引き出し、個別の事例として相談等を行った。しかし、緊急など生活の場の確保の必要性や命を守ることを第一としないといけない場合もあり、必ずしも、ご本人の希望通りにはならないこともあった。 また、相談支援専門員の個人的な考えや判断も大きく影響されかねない業務であるため、「本人中心」とは何かを、意識的に振り返を行うことが必要だった。
II：細かな支援と連携強化 利用者、関係機関、関係者と密に連絡を取り、困りごとはないか、変化はないかなどを聞き取り、連絡調整、ケア会議の開催などを通して連携を強化していきます。	3・ 2 ・1	各市町村より決定を受けているモニタリング時期だけでなく、各サービス提供事業所等やご本人、ご家族からの相談があった場合や、体調や精神的な不安定さがあるときなどは、電話連絡や自宅もしくは事業所等へ訪問を行い、必要に応じて臨時的担当者会議を開いたり、連絡調整などに努めて行った。それでも認識の違いのすり合わせが不十分であったり、情報共有の漏れがあったりすることがあり、十分でない部分があった。

<p>② スキルアップ 基幹相談支援センターする事例検討会や勉強会に参加します。また、新しく相談支援専門員として従事する者及び経験年数の浅い相談支援専門員に対し、相談支援専門員現任研修を修了した相談支援専門員の同行による研修を実施し、スキルアップを図ります。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>宮崎市自立支援協議会の相談支援部会に所属し、今年度からは、子ども支援部会にも所属し、定期的に行う事例検討会や勉強会に、相談支援専門員の1人は出席し、他の職員には、口頭や研修資料を回覧することで、情報の共有ができるようにした。またスキルアップにつながりそうな研修や講演会などは、積極的に参加した。年数の浅い相談支援専門員に関しては、本年度は、同行訪問を行うとともに、相談支援の手法や必要書類等の確認等と一緒に、スキルアップの機会を設けた。しかし、機会が少なかったからか、十分なスキルアップにはつながらなかった。また、今年度は、医療的ケア児等コーディネーター養成講座や精神障がい者支援に関する研修にも参加し、知識や技術の向上だけでなく、事業所の体制加算の算定要件も満たすことができた。 令和2年2月以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各研修会などは延期や中止となり不参加。</p>
<p>③ 利用者に関する情報又はサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達等を目的とした会議を定期的で開催します。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>週に1回程度(月4～5回)朝礼時や臨時で、利用者支援についての相談や支援にあたっての留意事項等を伝達・相談し、次の支援につなげた。また、その会議の内容は記録し、保存した。</p>
<p>④ 支援が困難な事例を紹介された場合においても、計画相談支援及障害児相談支援を提供します。</p>	<p>3・2・1</p>	<p>国富町を中心に、綾町、基幹相談支援センターであるおおぞらから、虐待や虐待疑い、ご本人(児)でなく、家族支援が必要な事例、早急に支援が必要な事例などの紹介を受け、基本相談で対応し、必要に応じて、計画相談支援及障害児相談支援を提供した。</p>

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

3. 活動報告

【新しいサービス提供事業所の発掘】

東諸県郡には、日中一時支援事業所が一か所しかなく、その事業所も、人手不足等を理由に、受け入れが難しい状況が発生した。そのため、宮崎市内の日中一時支援事業所を中心に、東諸県郡圏域の実情を伝え、綾町、国富町の方々も受け入れが可能になるよう、事業の範囲変更や各市町村への事業申請を行っていただけるように積極的に働きかけ、その結果、国富町、綾町の児童を中心に、受け入れていただける事業を2か所増やすことができた。

【地域生活支援事業の拡充】

綾町には、地域生活支援事業による訪問入浴支援を利用することができず、医療的ケアが必要な方の入浴は、医療による訪問看護によるものか、日中の活動の場を利用する方法しか手段がなかった。しかし、呼吸器を必要とする方などの医療的ケアが必要な方を受け入れていただける事業所は限られており、移動の問題、事業所と自宅の距離の問題など多くの課題があったため、綾町へニーズや現状を伝えた。事業を始めるためには、町の予算を確保する必要があるなど、様々な手続きが必要だったが、令和2年4月より、サービスを利用することが可能となった。

【国富町と相談支援専門員との連携】

昨年度から、「行政と国富町の相談支援専門員との横のつながり」を構築していくことを目的に、不定期に国富町と国富町に事業所がある相談支援専門員との任意の連携会議を開催したが、本年度から、正式に「国富町相談支援事業所連絡協議会」という位置づけで、定期的に会を開催することとなり、国富町との情報の共有や交換を行った。その中で、虐待の問題、来年度の利用者（児）の見込み、国富町の今後の動きなどを知ることができ、放課後等デイサービスの定員不足の問題も話し合わせ、放課後等デイサービスまわらぼうしの定員変更検討時の情報提供をすることもできた。

【介護支援専門員との関係作り】

国富町のケアマネジャー連絡会、通所サービス連絡会、有料老人ホーム連絡会、地域密着型サービス事業所、介護保険事業所、地域包括支援センター、国富町役場が一同に会する、地域包括ケア連携会議に定期的に参加し、障害者の高齢化問題もあることから、顔の見える関係作り、情報共有等を積極的に行った。また、東諸県ケアマネジャー連絡会の勉強会では、「介護支援専門員と相談支援専門員～互いを知る～」と題して、制度の違いや共通点、互いを知ることを中心に講義を行ったり、事例検討会に呼んでいただき、精神疾患の方の対応についてなどを、相談支援専門員としての立場から話をする機会をいただき、少しずつではあるが、相互理解ができつつあり、包括支援センターからの相談やケアマネジャーからの相談もあった。

4. 権利擁護研修

○実績

今年度は、渡部氏が令和元年度障がい者虐待防止・権利擁護研修に参加し、そこで得た知識・手法を使い、月にグループスーパービジョンを使った事例検討会を実施した。

また、利用者などの権利擁護や虐待に関しては、各担当利用者の支援の実際を基に、迷ったときや困ったとき、考え方に不安を覚えた時など、定期的、かつ随時、話し合いを行い、よりよい支援につながるように話し合いを持った。

5. 行事報告

事業所の特性上、実績なし

6. ボランティア

実績なし

7. 実習生

No	期 間	学校名・施設名	人 数
1	令和元年8月19日～令和元年8月23日(5日間)	宮崎医療福祉カレッジ	2名

1 4. 放課後等デイサービス表わらぼうし

児童発達支援管理責任者 寺田 法子

1. サービス実績

○放課後等デイサービス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	25	24	25	25	26	23	25	24	24	23	23	25
延べ人数	248	237	253	250	235	229	213	212	229	220	206	228
稼働率	99.2	99.8	101.2	96.2	90.4	99.6	85.2	88.3	95.4	95.7	89.6	91.2

2. 重点目標

項目	評価点	評価
①職員の資質向上を図ります。	3・②・1	5、6、7、9、10、11、12、1、2月は、勉強会を実施した。 (内容) 「発達障害について」「目標を達成できる組織作り」「てんかん発作」「聴覚過敏」「RICE処置」「愛着障害」「構造化」「吃音」「ADHD特性の理解」「最近のLD・ADHD児の理学療法」「ペアレント・トレーニングについて」等 平成30年度の評価結果の見直しを行う時期が遅く、10月の評価に間に合わなかった。また、例年評価表の回収率が低いことが課題となった。
②定員以上の利用を目指します。	3・2・①	平成31年4月より、定員順守を基本とする考えが県より通達されたが、本年度までは12名前後の曜日利用契約を行った。しかし、体調不良や家庭の事情による当日キャンセルも多かったため、祝日等による利用曜日の変更を行い、私用で休みが多い家庭には、利用曜日の変更を相談した。また、医療機関への入院と不登校等の理由から利用が減った児童についても利用日数の見直しを行った。土曜日は唯一登録者数が10名を満たず、休む児童も多かったため5名の新規契約を行うも、10名に満たない日が多かった。その為、土曜日に行われた行事は、家族の同意を得られた児童のみを利用日とするなどした。定員を超えたのは6月のみであった。 家族に参加していただいた行事は、後日アンケートを取った。中でも、家族同士が子育てについて話ができる場所があると良いといった意見が数件挙がっていたため、1、2月は家族相談会(茶話会)を実施した。児童については、「自由時間がほしい」と言った要望が多く聞かれるようになったため、活動時間を短くし、わずかではあるが自由時間を設けられるよう調整した。しかし、平日は時間が限られているため、満足感を味わうまでは至っていないと感じる。

<p>③地域との結びつきを深めます</p>	<p>③・2・1</p>	<p>活動では、様々な公共施設へ行ったり、竹田・森永地区のゴミ拾い等を行った。事業所で起震車の体験をする際は、地域の方にも案内を配布した。クリスマス会では、本庄小学校の校長先生と児童の担人教諭や武田地区の区長さんにも参加していただいた。また、事業所開放日では、大人から子どもまで多く地域住民の方の参加があったが、規模が多くなるにつれ、利用児の支援が疎かになりやすいため、今後は学生や家族等にボランティア等を依頼することも必要だと感じた。</p> <p>就労継続支援B型事業所つむぎと合同で芋の苗植えと収穫体験を行った。土に触れたり、収穫した芋で調理をしたりしながら楽しく『食』に触れることができた。麦わらぼうしだけでは、実施することのできない貴重な体験であったため、今後も継続したいと感じた。</p>
-----------------------	--------------	--

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

3. 活動報告

<p>今年度は、ソーシャルスキルトレーニングを用いた活動を週に1回取り入れていった。実際に研修等で学んだ経験のある職員がいないため、目的や根拠が曖昧な点もあったと思われたが、職員がチャレンジしたことで、利用児が人との関わりや遊びの場面で求められる社会的スキルを用いる経験を増やすことができたと感じた。今後、研修等で学びながらソーシャルスキルトレーニングの根拠を明確にさせ、提供しなければならない。</p> <p>運動は、毎日のストレッチと体幹トレーニングが定着し取り組みも良くなった。また、体幹トレーニングのポージングは少しずつ形が整い始め、体幹やバランス感覚の向上がうかがえた。理学療法士が数名の児童を対象に運動評価を行い、個別支援計画の報告にも記載し、変化を家族に伝えるようにした。運動が苦手な児童をもつ保護者より、「出来たか・出来ないではなく、本人なりに成長していることが知れて良かった」等の意見が聞かれた。</p>

4. 権利擁護研修

<p>毎月の麦わらぼうしの職員会の中で、月事に決められた担当者が研修を行った。9月は、交換研修として山路副施設長よりアンガーマネジメント研修を行ってもらい、自身の特性や傾向を知り、自身の行動を振り返る機会をなした。職員が研修のテーマで悩んでいることもあるため、他事業所の研修内容を知ること出来た。</p>
--

5. 行事報告

行事名	日程	参加者数
イースター	4月17日	利用児童10名
芋の苗植え(つむぎ合同行事)	4月20日	児童8名、家族4名
魚釣り体験 (※中止)	5月11日	
家族会	6月29日	児童15名、家族15名、
トレッキング	8月5日	利用児童11名
デイキャンプ	8月24日	児童15名、家族15名
リサイクル工作を楽しむ会(事業所開放日)	9月28日	当日利用児童6名 参加契約児童4名 地域児童14名 地域大人9名
芋掘体験(つむぎ合同行事)	10月19日	当日利用児6名 参加契約児童8名 参加家族9名
ハロウィンごっこ	10月30日	利用児童11名
陶芸教室	11月2日	利用児童7名
クリスマス会	12月25日	利用児童14名 参加家族10名 来賓4名
家族親睦会(※中止)	2月29日	
室内遠足	3月27日	利用児童9名

6. ボランティア

	期日	行事名	個人・団体名	人数	内容
1	8月1日	綾プール	妻高校	2名	利用児支援
2	8月7・21・28	プール・水遊び	富田	1名	利用児支援
3	8月10・17・31	通常活動	宮崎医療福祉カレッジ	2名	利用児支援
4	8月14日	感触遊び	宮崎学園短期大学	2名	利用児支援
5	9月28日	リサイクル工作を楽しむ会	利用児家族	1名	工作ブースの提供

7. 実習生

	期間	学校名・施設名	人数
1	8月26日～8月27日	宮崎医療カレッジ	2

1. サービス実績

○就労継続支援 B 型

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21	23
延べ人数	380	410	379	387	366	356	385	377	399	400	365	407
1日平均	17.3	17.8	17.2	16.8	15.9	16.2	16.7	17.1	17.3	17.4	17.4	17.7

2. 重点目標

項目	評価点	評価
2019 年度は利用者月額工賃 15,000 円(工賃工場計画 3 年計画の 2 年目)を目標に工賃向上のための施設外就労、委託作業等に取り組みます。	3・2・1	・利用者の工賃向上と支援という相反する課題を抱えながらも、利用者の特性を活かした作業班編成や段階的な作業訓練を行い、作業の効率化を図ったことで施設外就労先が増加し、目標である利用者平均月額工賃 15,000 円を達成するに至った。
利用者の人権を尊重し自己選択、自己決定を重んじ仕事を通して社会参加や自己実現を図り、喜びのある「生きがいのある暮らし」を提供いたします。	3・2・1	・就労を通して様々な経験を重ねたことで、利用者一人ひとりが働く目的を得たことで、選択が可能な物事や範囲を広げられたことで、今の生活に生きがいを感じられるようになってきた。しかし、意思決定支援する場面において、多くの利用者が支援を必要としているため、意思決定支援の理解をより深めるための研修が必要であると感じた。
利用者がお互いに就労の意欲や情報を共有し、切磋琢磨し合える環境作りに取り組みます。	3・2・1	・作業班ごとに構成メンバーが定着したことで、作業目的や内容を利用者間で共有が出来たことで作業の効率化が図られた。また、作業風景を見ておられた地域の方々が、つむぎ(利用者)に関心を持ってもらえた事が、利用者一人ひとりの働くことへの意識を高める結果となった。
地域とのつながり及び社会貢献の側面を意識してネットワーク作りを進めます。	3・2・1	・利用者が農業分野で活躍することを通じ、就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手として地域と繋がり、貢献することを意識してネットワークの構築を促進してきたが、1 事業所としての働きには限界があり、今後は関係機関と密に連携を図れるネットワーク化が必要であると感じた。
施設内外の研修参加や職員間のコミュニケーションを図ることにより支援の質の向上を図ります。	3・2・1	・法人主催の研修により、法人職員とのコミュニケーションが図れたことで各事業所の理解や深まった。また、施設外研修等の参加したことで、各職員が求められている必要な知識やスキルの習得をしたことで、利用者支援の質の向上した。

3=実施できた・2=実施したが不十分・1=実施できなかった

3. 活動報告

重点目標としていた項目については概ね満足できる結果を得る事ができた。しかし、それぞれの項目で課題も残された。残された課題の解決に向け、課題を正しく理解し反復して確認する事で、利用者の満足度や支援の質の向上に繋がるように活動内容の精査が必要だと感じた。

4. 権利擁護研修

○実績

権利擁護研修の担当職員が定まらず、毎月開催が出来なかった。
今後は研修内容や実施担当者を定め、毎月開催できる体制構築が急務である。

5. 行事報告

行事名	日程	参加者数
芋の苗植え	4月20日	30名
輪音ライブ	5月3日	100名
レクリエーション	6月29日	20名
芋ほり体験	10月19日	40名
望年会	12月14日	35名
花見	3月14日	22名

6. ボランティア

	期日	行事名	個人・団体名	人数	内容
1	4月20日	芋の苗植え	荒綾農産	1名	農業指導
2	10月19日	芋ほり体験	荒綾農産	1名	農業指導

7. 実習生

	期間	学校名・施設名	人数
1	6月10日～6月21日	宮崎中央支援学校	2名
2	8月13日～8月16日	宮崎医療福祉カレッジ	2名
3	11月20日～11月28日	宮崎中央支援学校	2名

14. じょい・ほっぷ（地域貢献事業）

担当職員 山本 和寛

○新規契約：9名（現契約：17名）

本年度は、定員以上の利用になる事はなく、依頼のあった児童を受け入れることができています。夏休み期間中は、川遊び等を行い、夏の思い出にもなっていた。12月には、1年の思い出作りとして、フェニックス自然動物園に出掛けた。児童も普段いけない場所に行く事で、楽しい思い出となっていた。インフルエンザ感染への防止策として、流行期には音楽室からひかりへと移動し、運営を行った。児童からは、音楽室が良いという言葉も出ていたが、感染症への理解を説明することで、納得されていた。3月2日からコロナウイルス感染防止の為、営業を中止した。中止するにあたって、利用頻度が高い契約している御家族に集会の依頼を出し、御家族向けに説明会を開催した。説明会では、コロナウイルス感染防止への考えを説明し、来年度のじょい・ほっぷの営業開始日等の説明を行い、理解を求めた。また、契約数が多くなり、今まで使用できていた児童に関しても今後は、曜日指定で利用になる可能性を説明している。

地域貢献事業として、営業を開始して数年が経つが、地域への浸透もされてきており、学校内にも広まっている。法人の広告塔として、影響力はあると考えている。事実、新規契約者数も増えてきている。契約児童が増える一方で、利用日の予約をしないと運営できないと言う課題も浮き彫りになってきた。今後、じょい・ほっぷの在り方をどうすべきなのかを、法人全体で検討すべき必要があると感じる。